

資料の要点：2021年6月22日時点

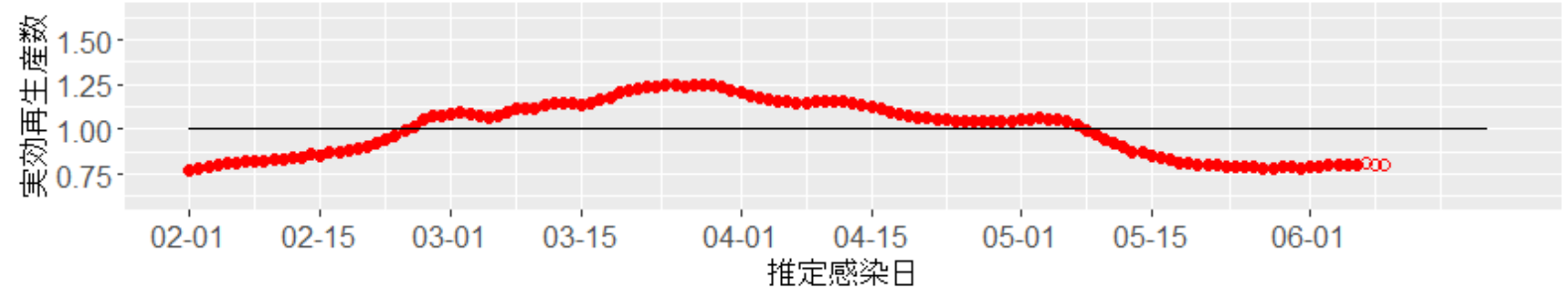
- 全国的に実効再生産数（概ね値が確定した6月6日時点）は1未満を維持しているが、関東圏では上昇傾向がみられる。P2-4
- 注目すべき都道府県*：沖縄県。沖縄県ではすべての世代で減少傾向が続くが、いずれもステージ4相当である（P13, P34）。東京都では、年代では20-30歳代、地理的に都心部はステージ4相当であり、全世代で減少傾向が消失し横ばいである（P7, P14-15）。一部地域でHER-SYSの入力が遅れている。P5-34
- 東京都では新規症例数が増加傾向となる可能性がある。P35
- 全国で継続的にB.1.617系統（デルタ株等）の症例が報告されている（P40）。民間検査会社でのスクリーニング検査の結果によると、関東地方ではデルタ株の置き換わりが進行しつつあり、関西地方でも置き換わりつつある可能性がある（P41）。P36-41

*実効再生産数と新規症例数に基づいて抽出

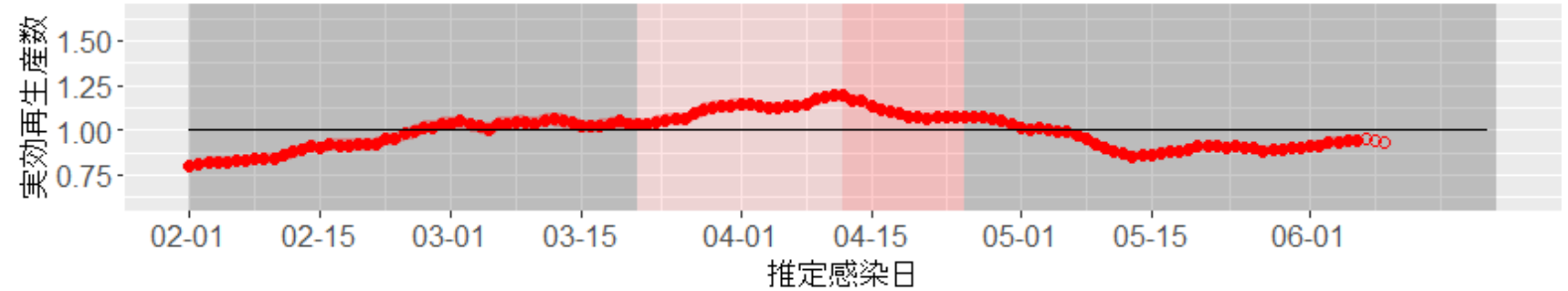
国立感染症研究所 感染症疫学センター サーベイランスグループ
協力：新潟大学 菖蒲川由郷（GIS）

全国の実効再生産数（推定感染日毎）：6月22日作成

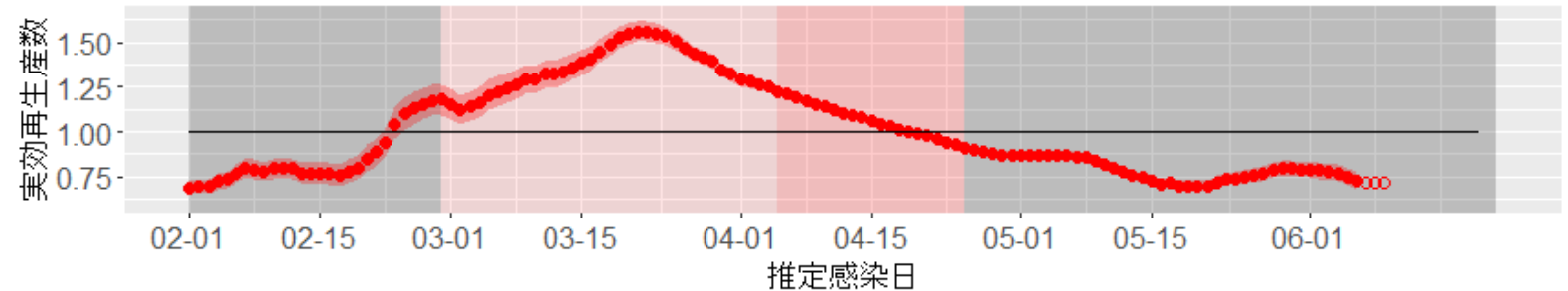
全国
 6月6日時点Rt=0.80 (0.79-0.82)



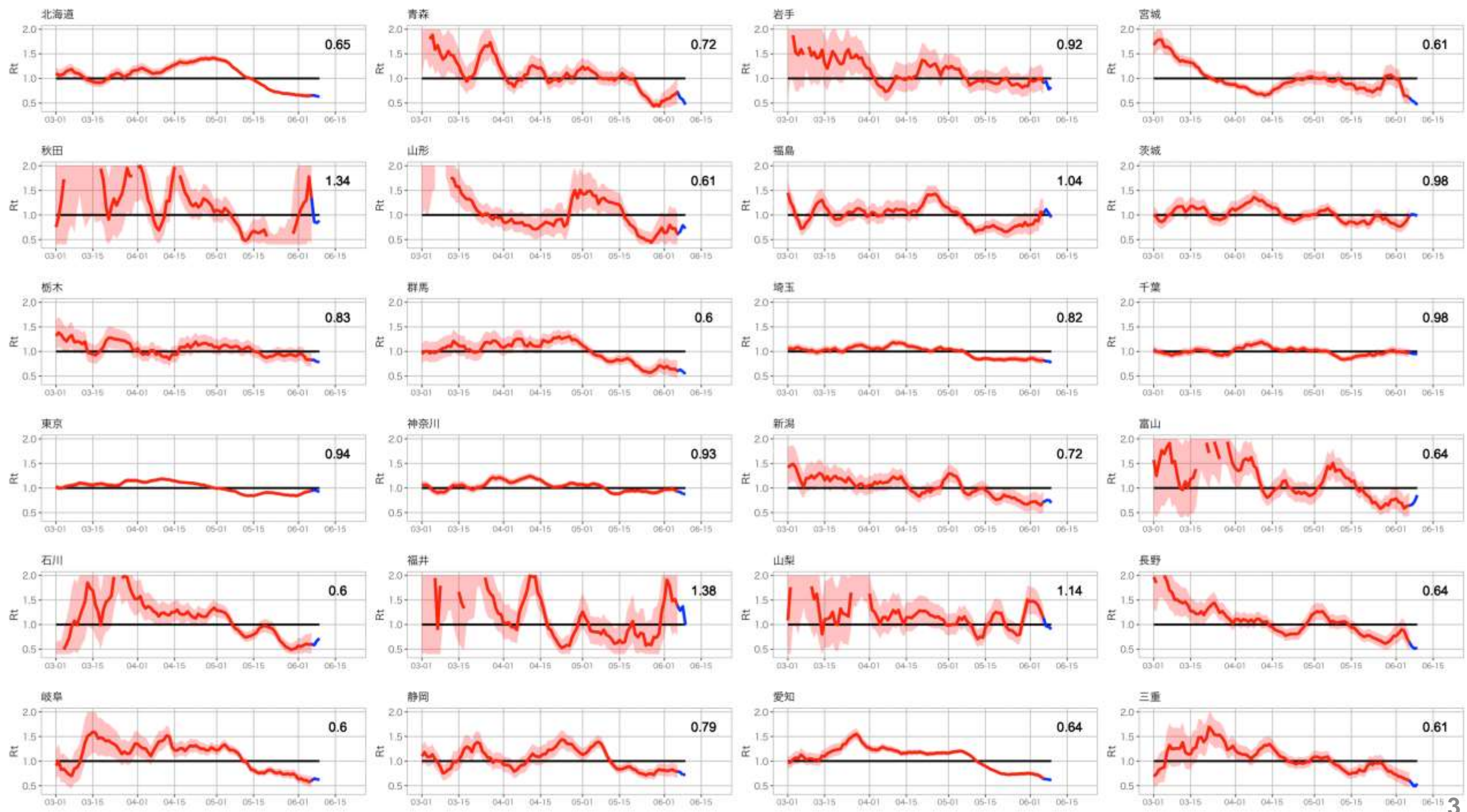
首都圏：東京、神奈川、千葉、埼玉
 6月6日時点Rt=0.95 (0.92-0.98)

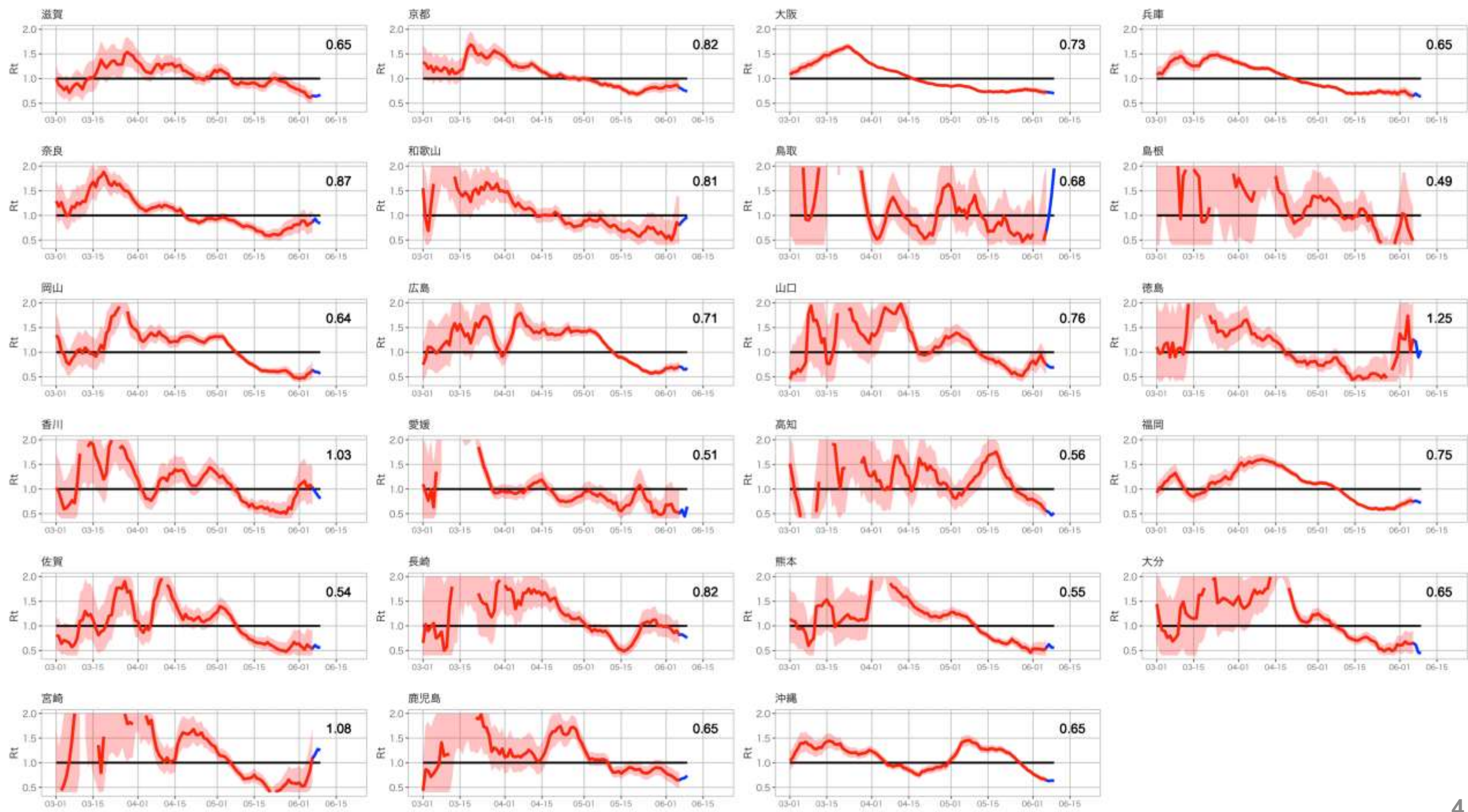


関西圏：大阪、京都、兵庫
 6月6日時点Rt=0.72 (0.68-0.77)



実効再生産数は推定感染日（発症日あるいは発症日不明例については推定発症日から潜伏期間をさかのぼることで推定）ごとにCori et al. AJE 2013の方法（window time=7）で推定した。16日前までの推定値を赤丸、報告の遅れのために過小推定となっている可能性が高い13日から15日前までの推定値を白丸で表し、それよりも直近の値は表示していない。括弧内の値と図中の赤帯は95%信頼区間を表す。
なお、発症日の入力率、公表率は自治体によりばらつきが大きく、また事後的に修正される可能性があるため、値は暫定値である。





使用データ

HER-SYSと自治体公開情報データ（6月21日時点）

まとめ

北海道：全ての年代において減少傾向であり、全ての年代でステージ3相当を下回っている。

宮城県：20・30代においては減少傾向、それ以外の年代においては微減～横ばい傾向であり、全ての年代においてステージ3相当を下回っている。

首都圏：埼玉県、神奈川県では全ての年代において微減～横ばい傾向であるが*、東京都と千葉県では10代と40-60代で横ばい～微増傾向である*。東京都と神奈川県では20・30代で依然としてステージ4相当を*、千葉県では20・30代でステージ3相当を上回っている*。埼玉県では全ての年代でステージ3を下回っている。

東海圏：愛知県、岐阜県共に全ての年代において減少傾向であり、全ての年代でステージ3相当を下回っている。

関西圏：全ての年代でステージ3相当を下回っており、京都府、兵庫県、大阪府では全ての年代において減少傾向であるが、奈良県では10代と20・30代で微減～横ばい、40-60代と高齢者で横ばい～微増傾向である。

中国：岡山県、広島県共に全ての年代でステージ3相当を下回っているが、岡山県では10代で横ばい～増加傾向、その他の年代で減少傾向であり*、広島県では20・30代と40-60代で減少傾向、その他の年代で微減～横ばい傾向である。

九州：福岡では全ての年代において微減～横ばい傾向であり、全ての年代でステージ3相当を下回っている。

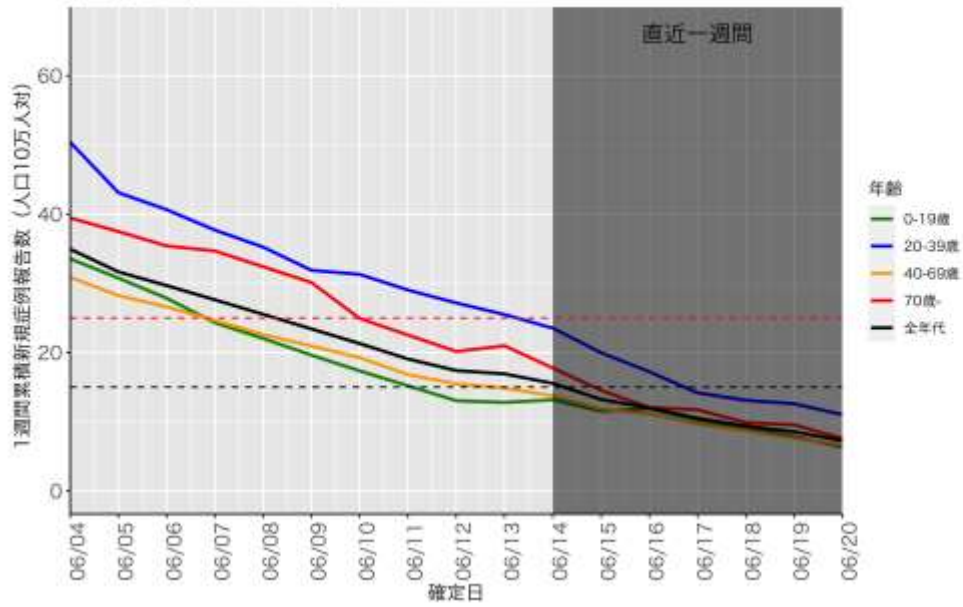
沖縄：全ての年代において減少傾向であるが、依然として全ての年代でステージ4相当を超えている。

（*はHER-SYSまたは自治体公開情報のどちらかのみでのレベルを示す。）

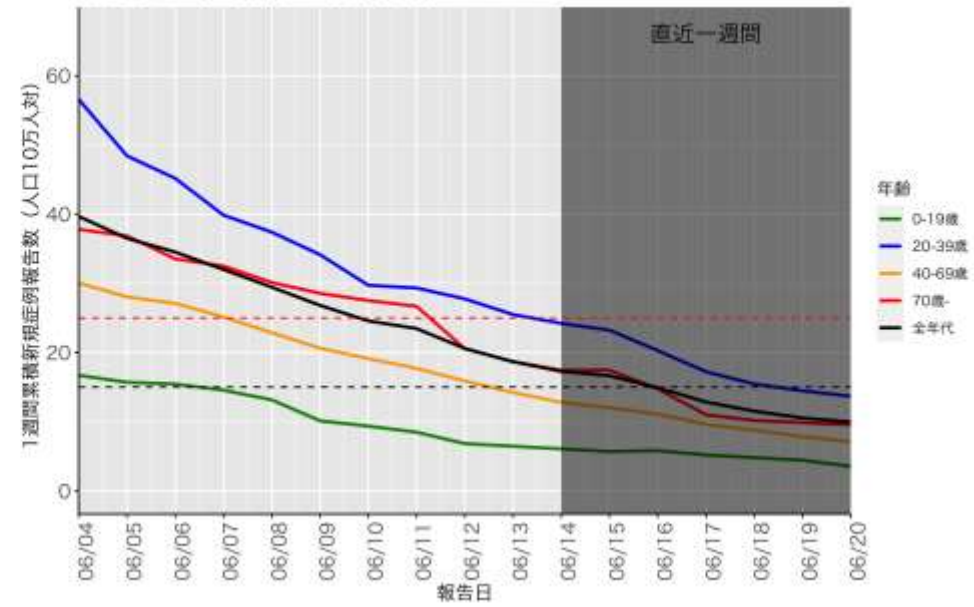
解釈時の注意点

- HER-SYSに基づく値は、特に直近1週間については報告遅れのために過小評価となっている可能性があり、その程度は自治体によって差がある（図の灰色部分）
- 自治体公開情報データに基づく年代別の値は、年代を非公表としている症例が多い自治体については過小評価となる
- どちらのデータも完全ではないため、両者を用いた評価が必要である

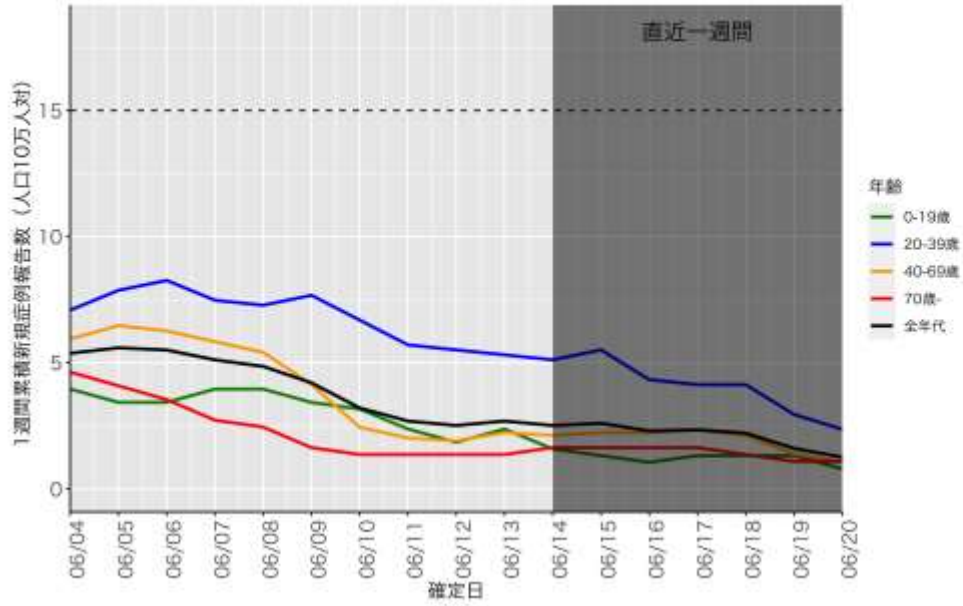
北海道 (HER-SYS)



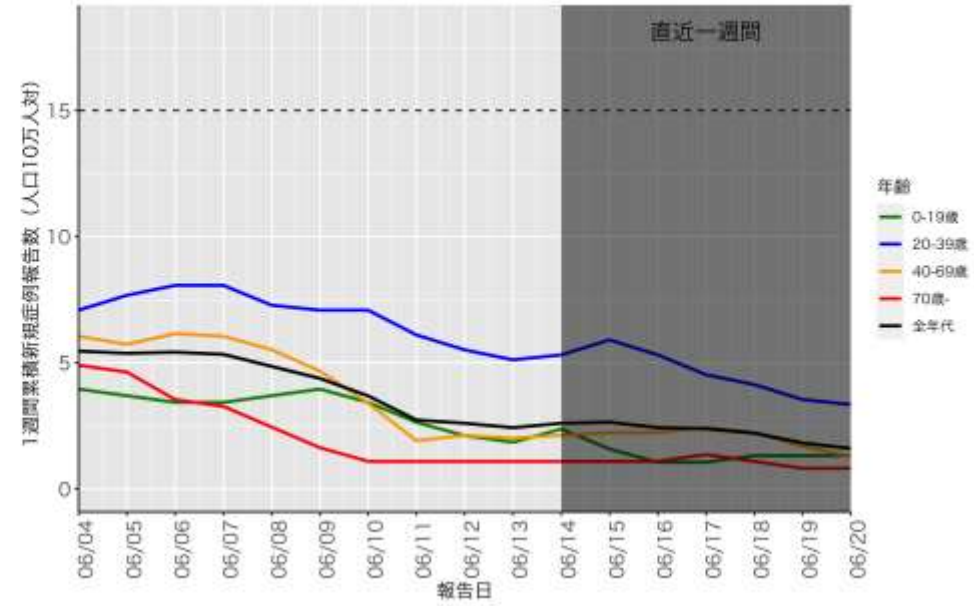
北海道 (自治体公開情報)



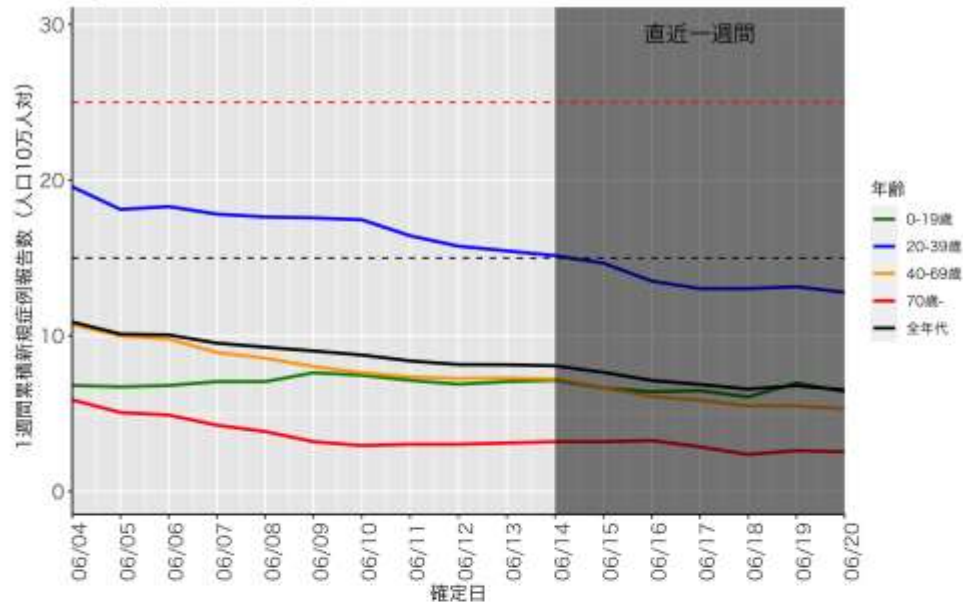
宮城 (HER-SYS)



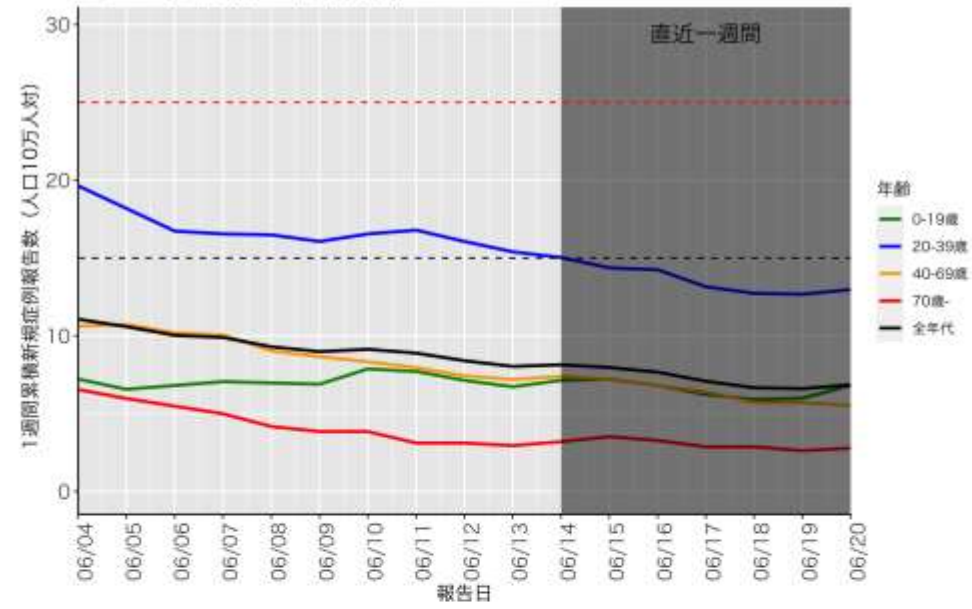
宮城 (自治体公開情報)



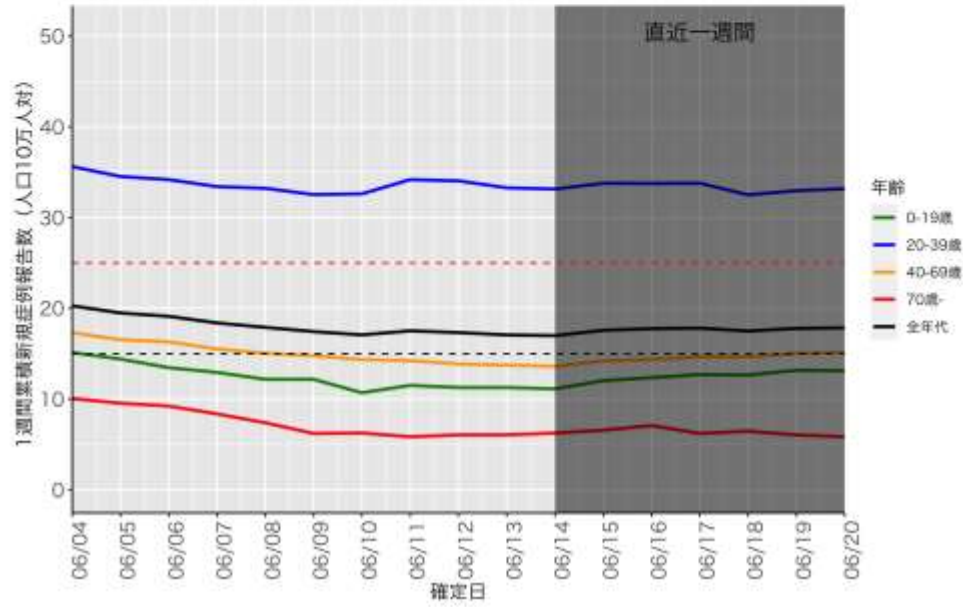
埼玉 (HER-SYS)



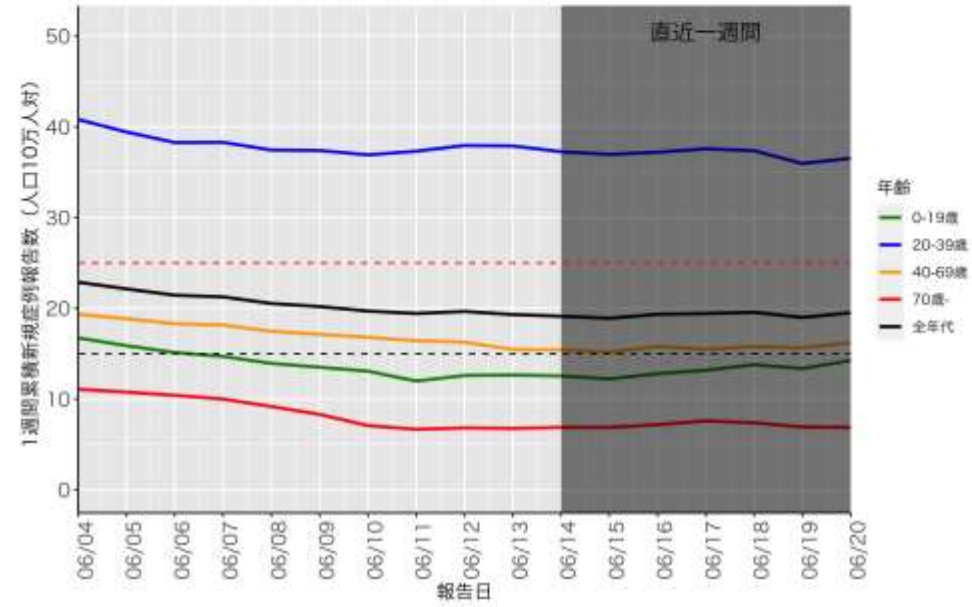
埼玉 (自治体公開情報)



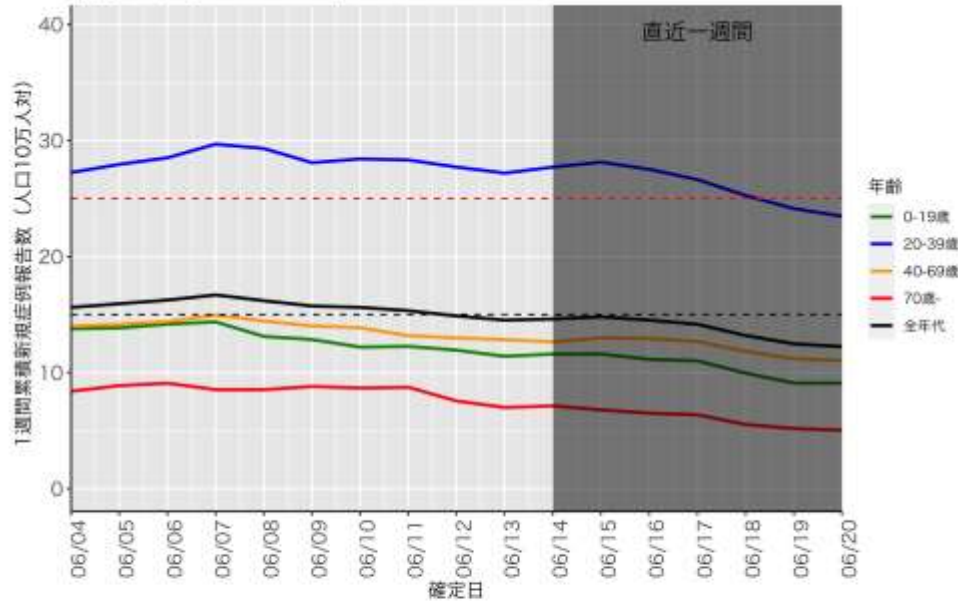
東京 (HER-SYS)



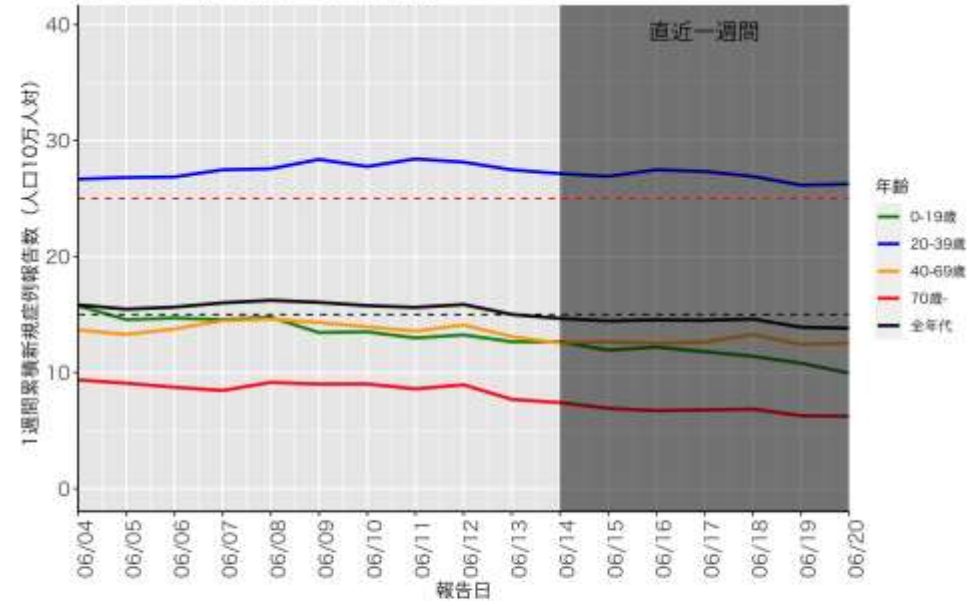
東京 (自治体公開情報)



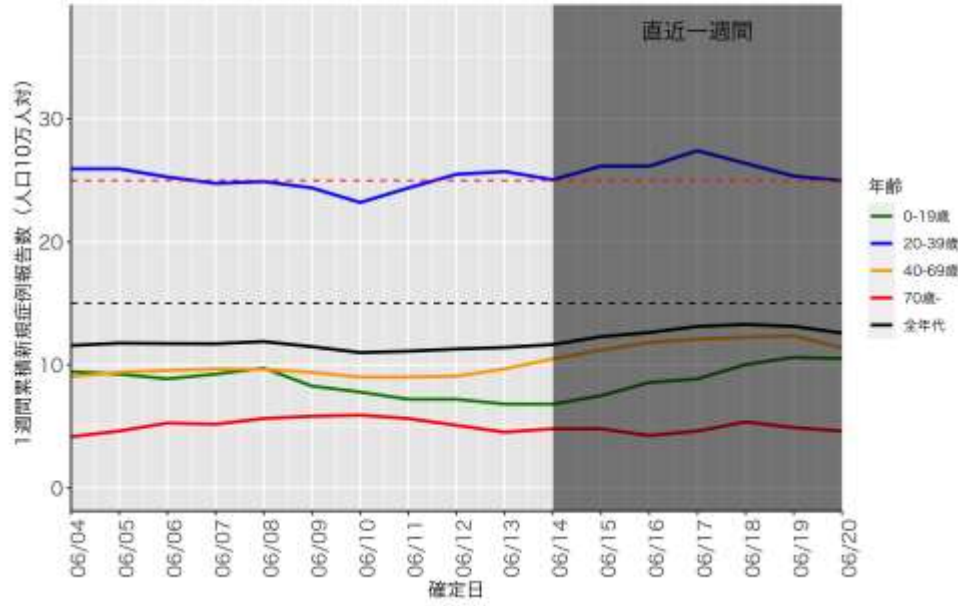
神奈川 (HER-SYS)



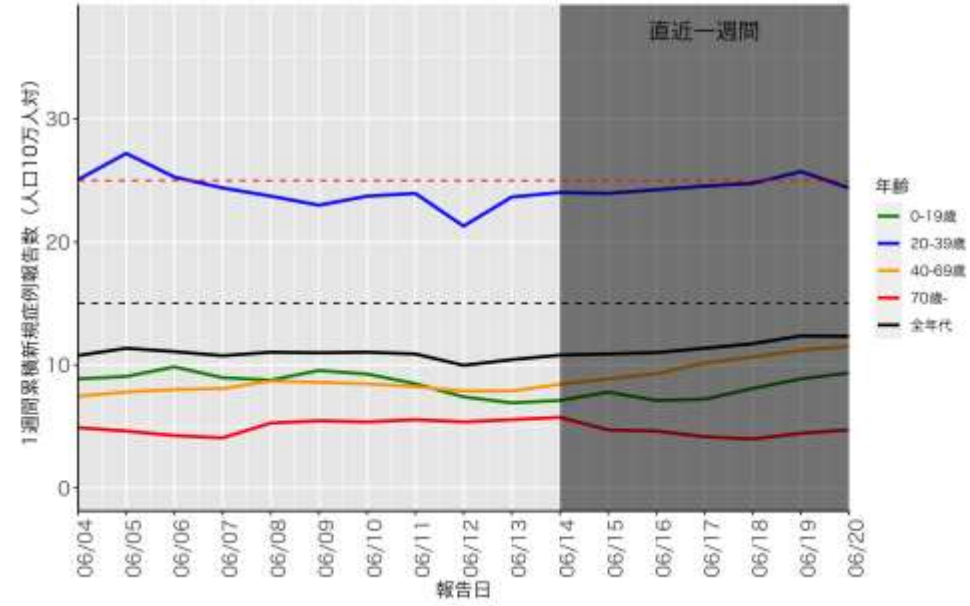
神奈川 (自治体公開情報)



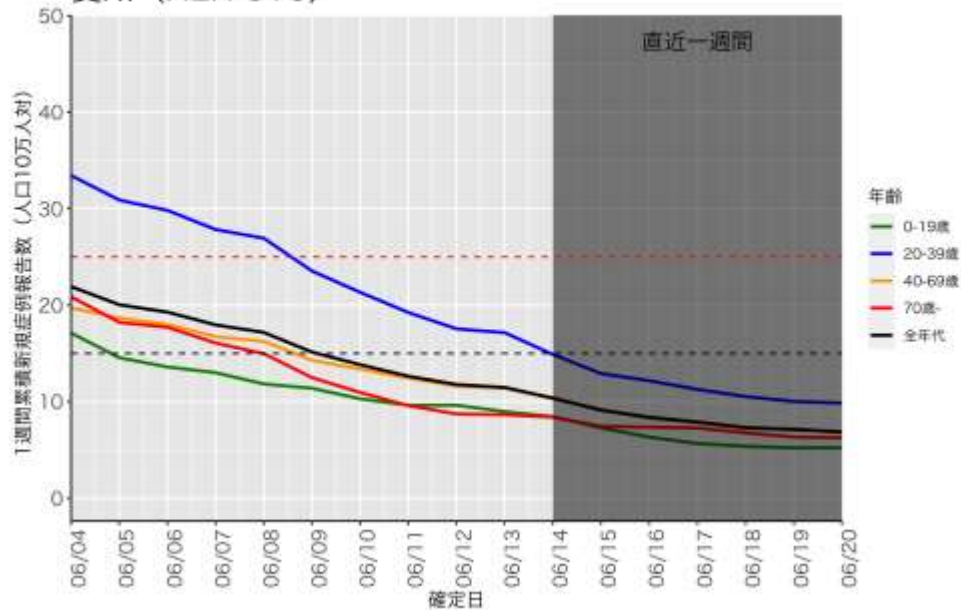
千葉 (HER-SYS)



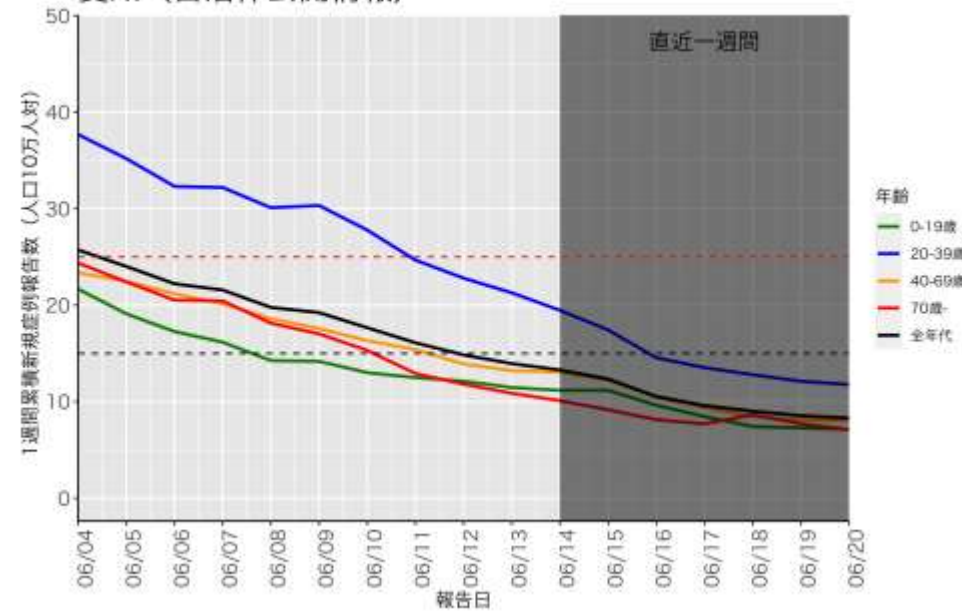
千葉 (自治体公開情報)



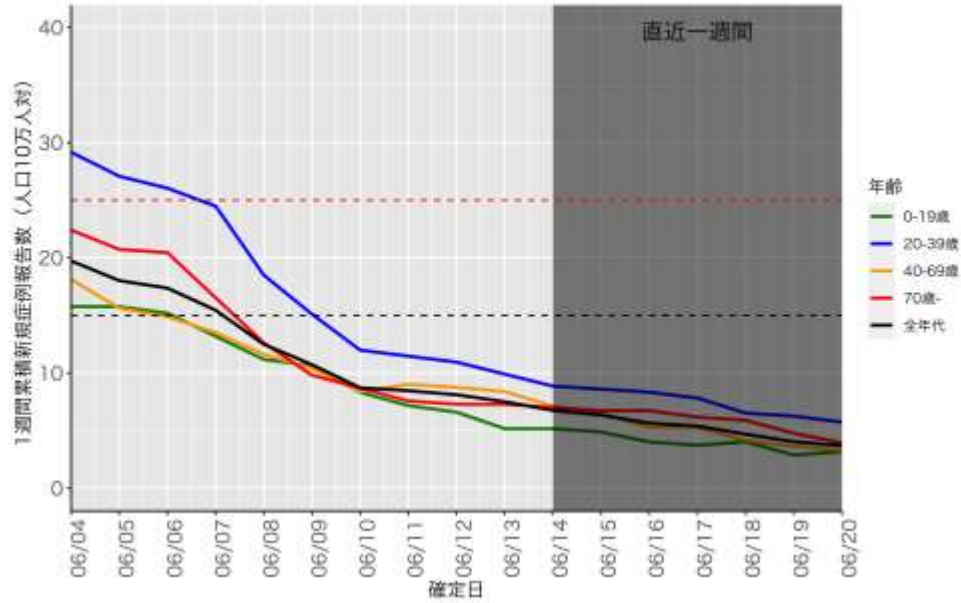
愛知 (HER-SYS)



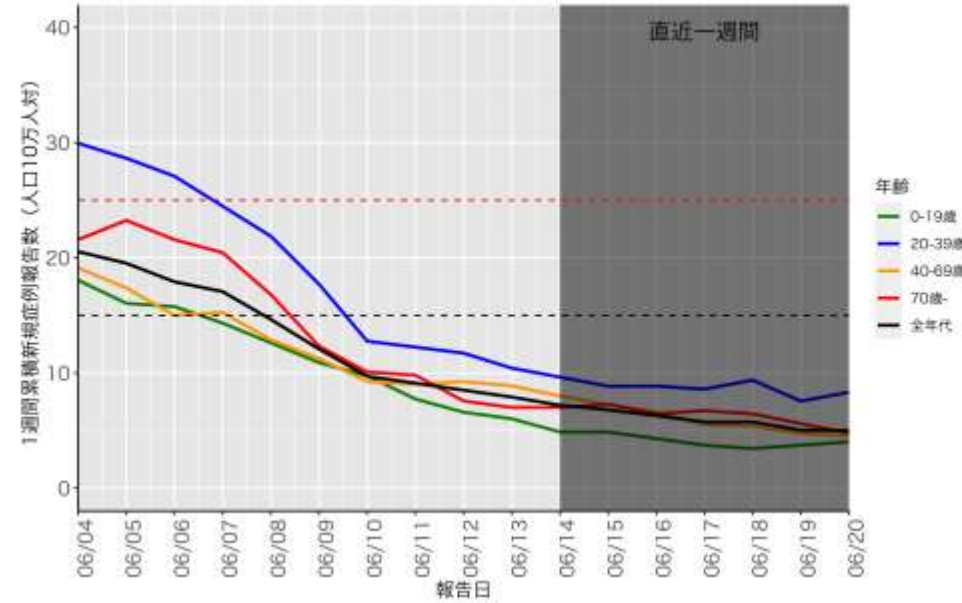
愛知 (自治体公開情報)



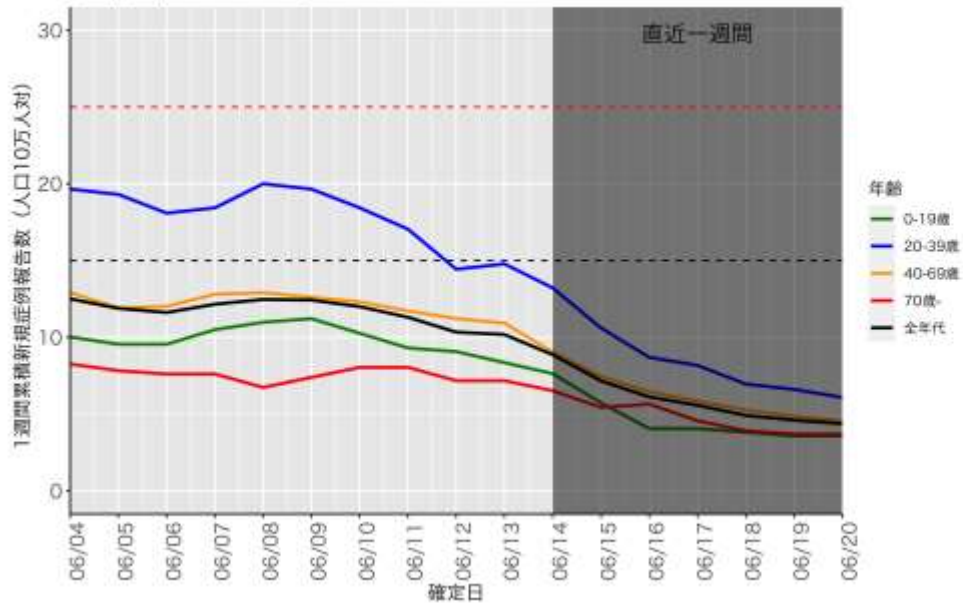
岐阜 (HER-SYS)



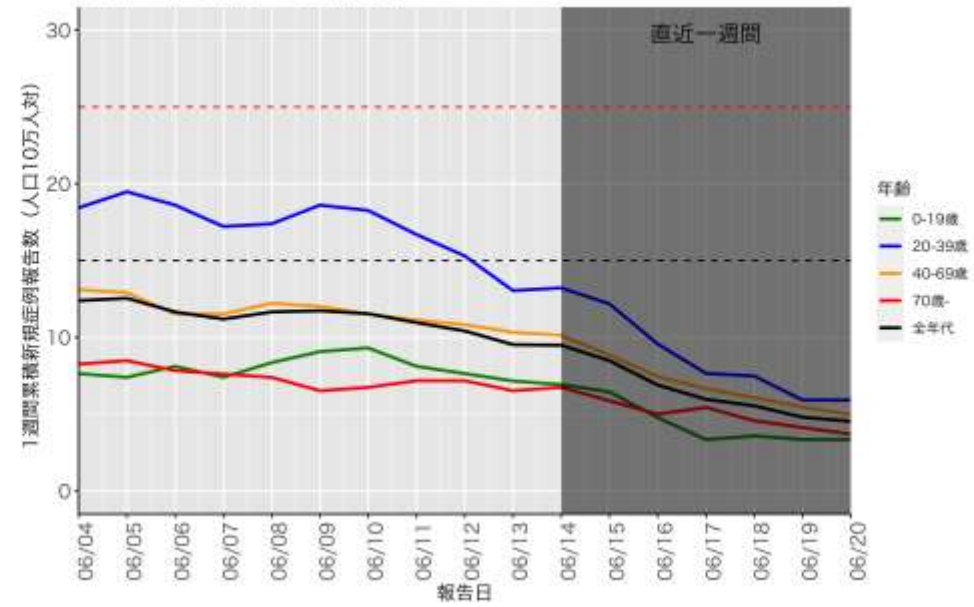
岐阜 (自治体公開情報)



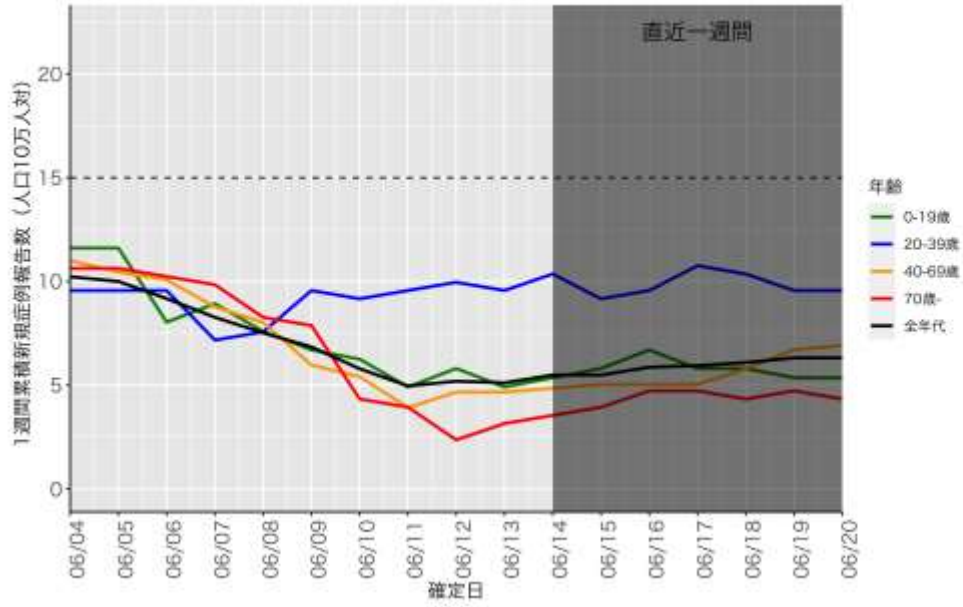
京都 (HER-SYS)



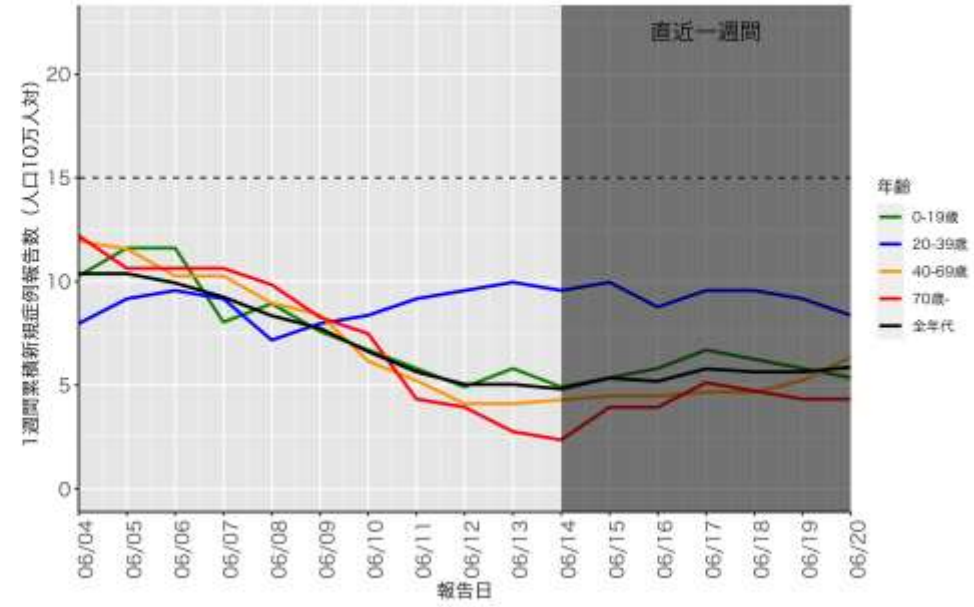
京都 (自治体公開情報)



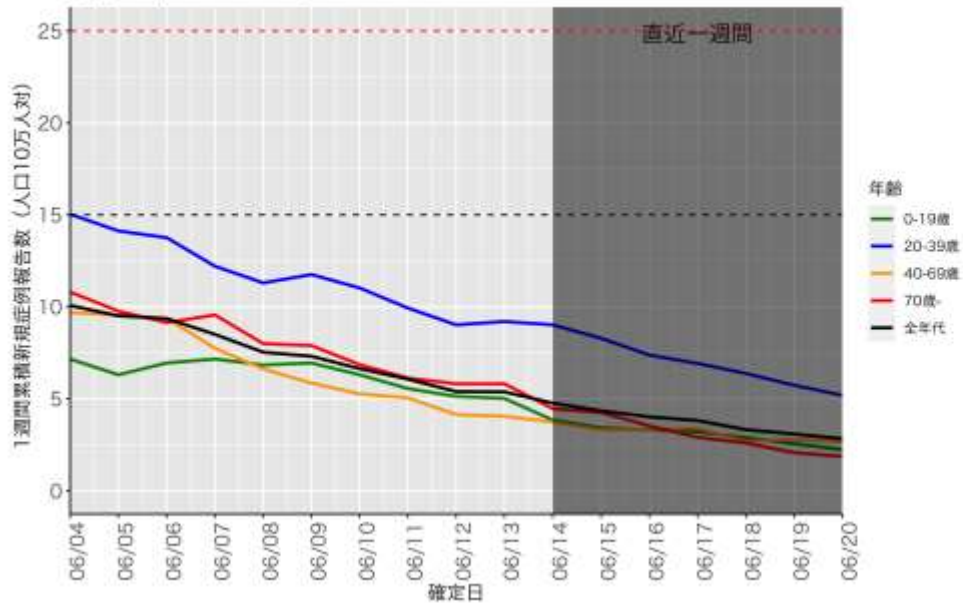
奈良 (HER-SYS)



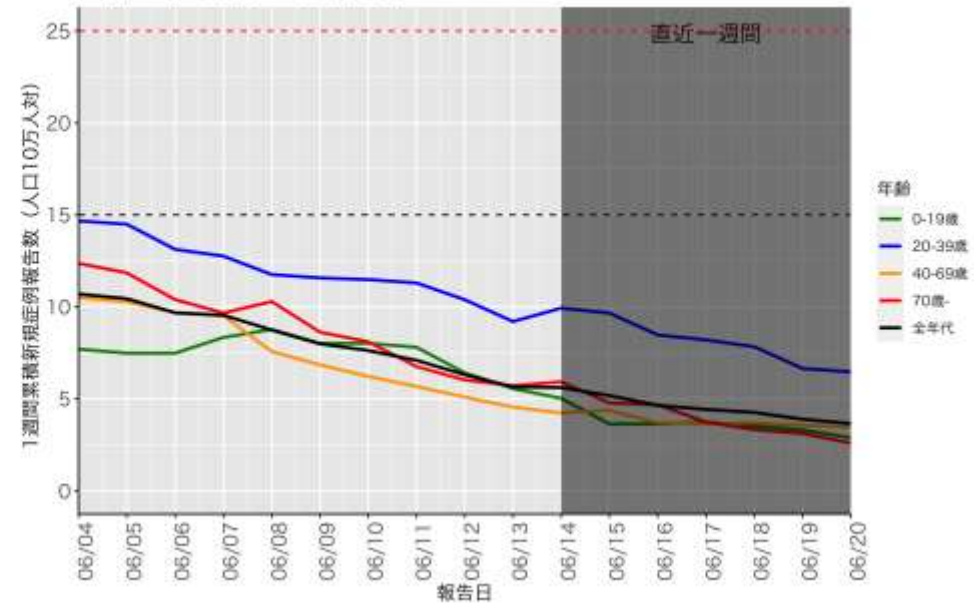
奈良 (自治体公開情報)



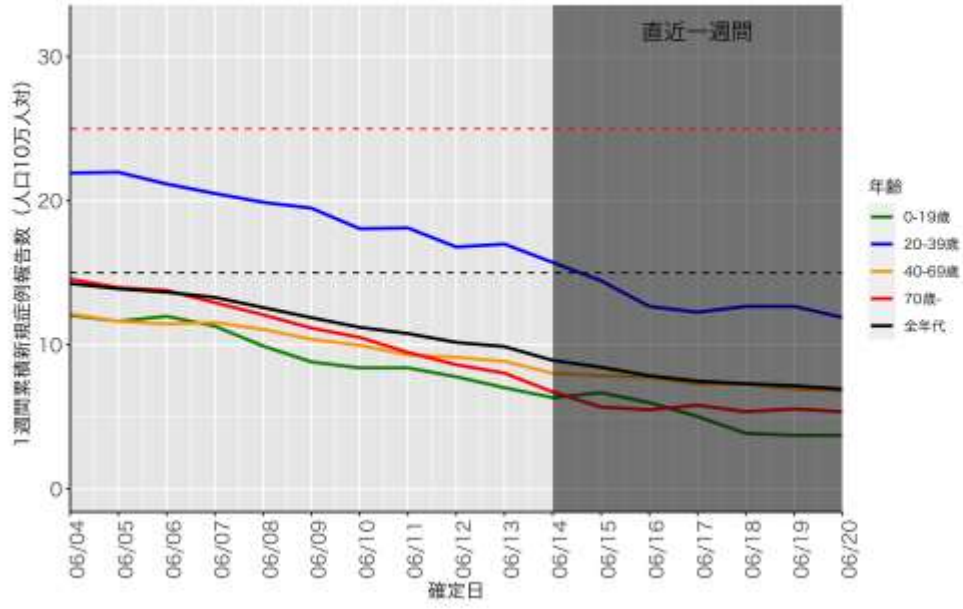
兵庫 (HER-SYS)



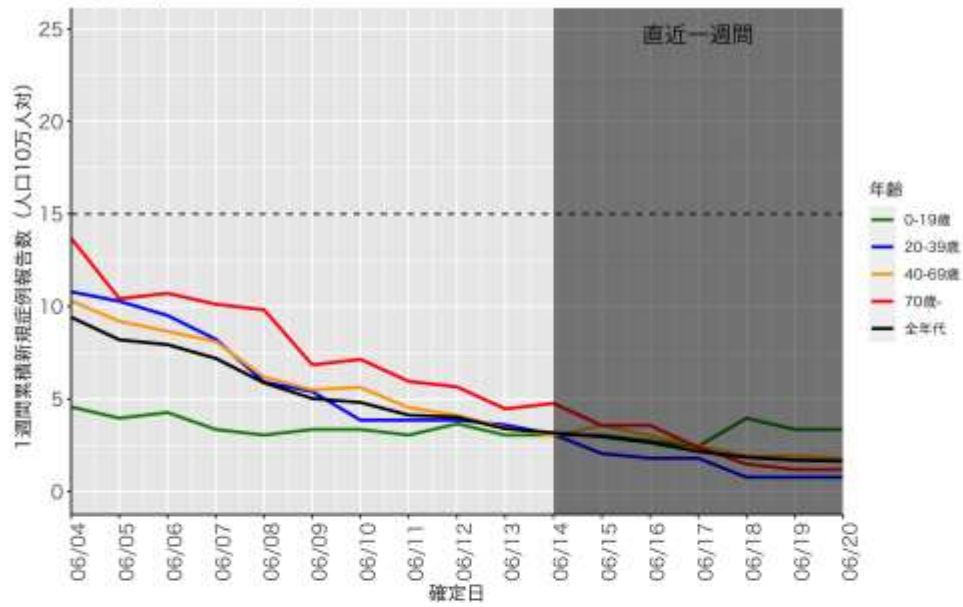
兵庫 (自治体公開情報)



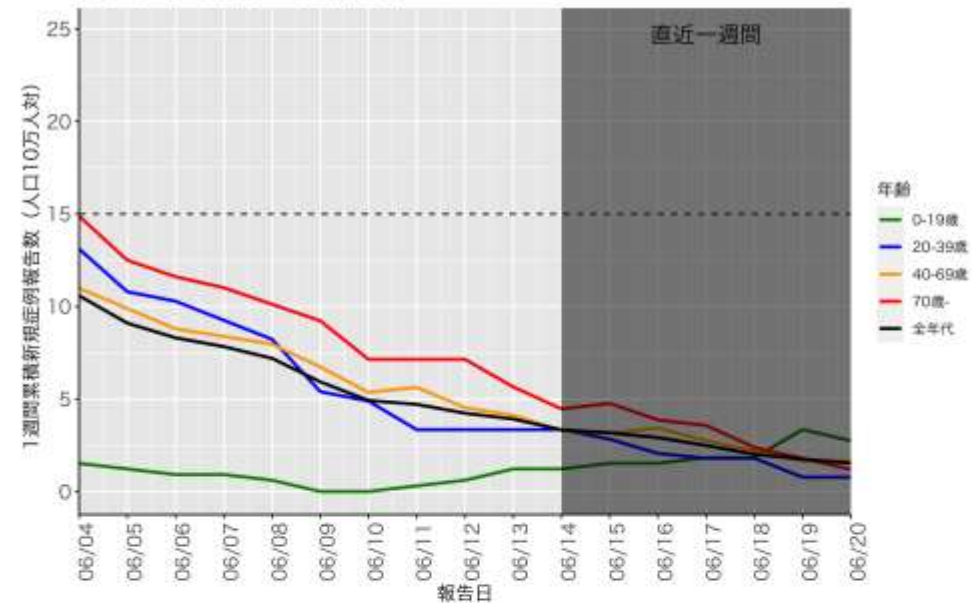
大阪 (HER-SYS)



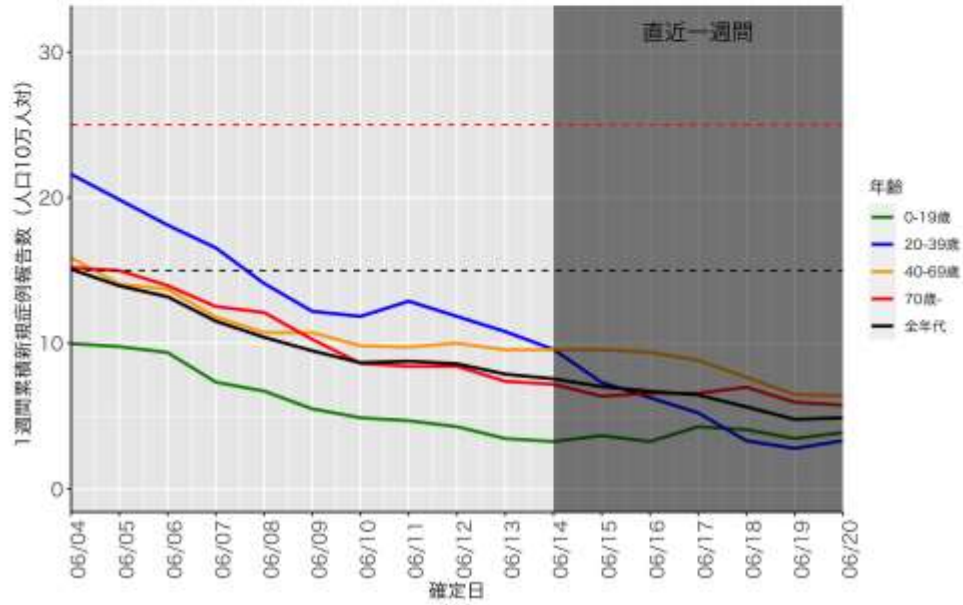
岡山 (HER-SYS)



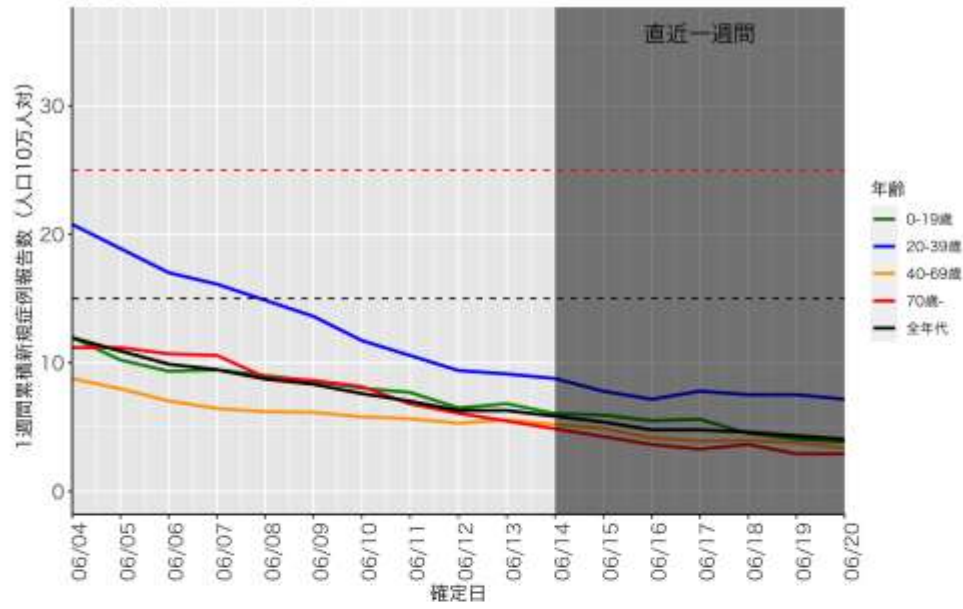
岡山 (自治体公開情報)



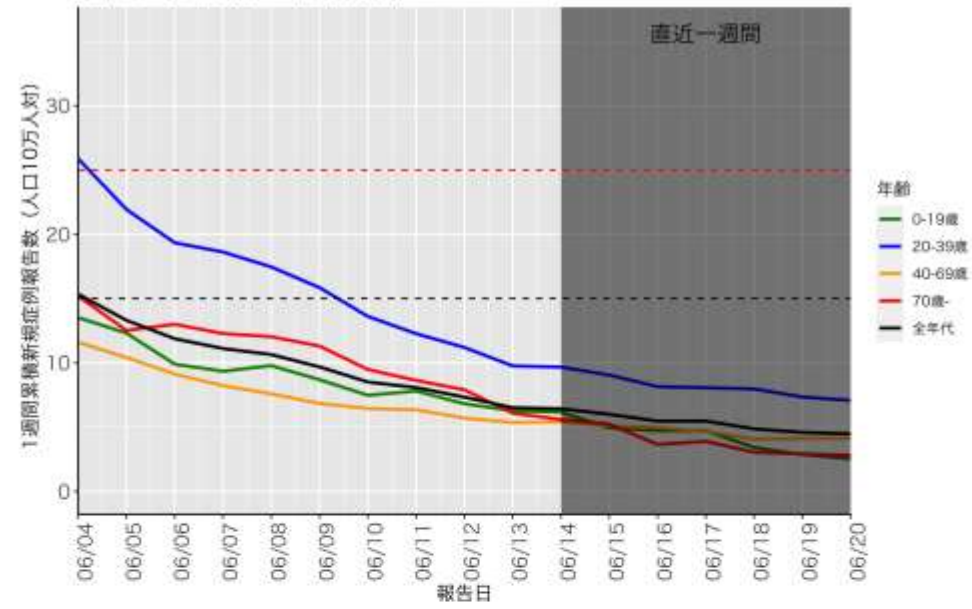
広島 (HER-SYS)



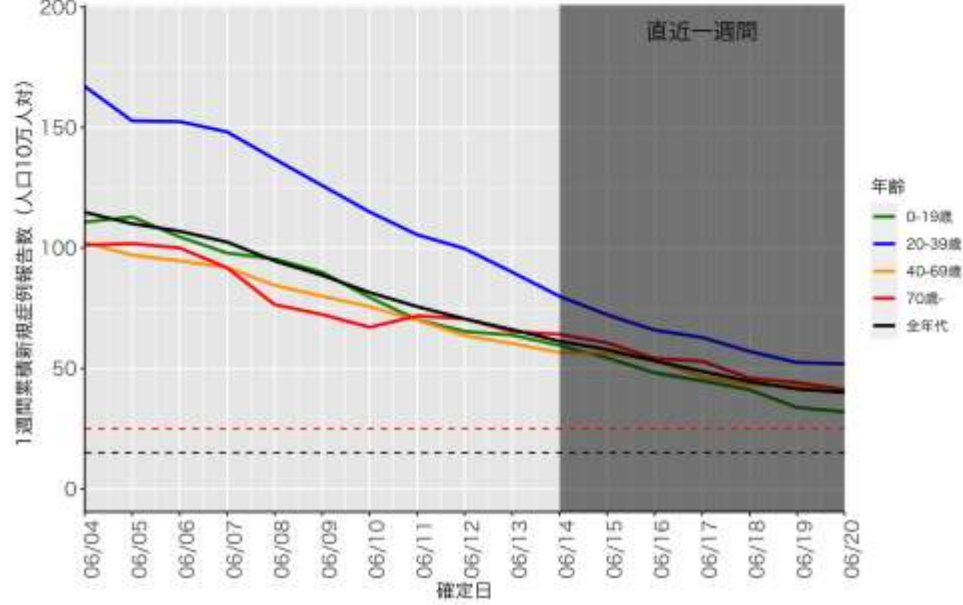
福岡 (HER-SYS)



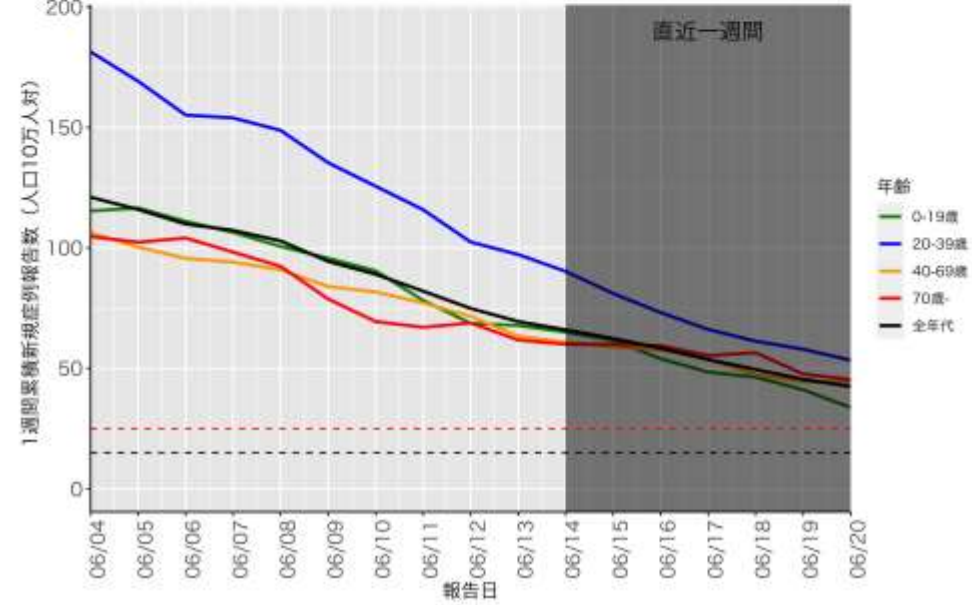
福岡 (自治体公開情報)



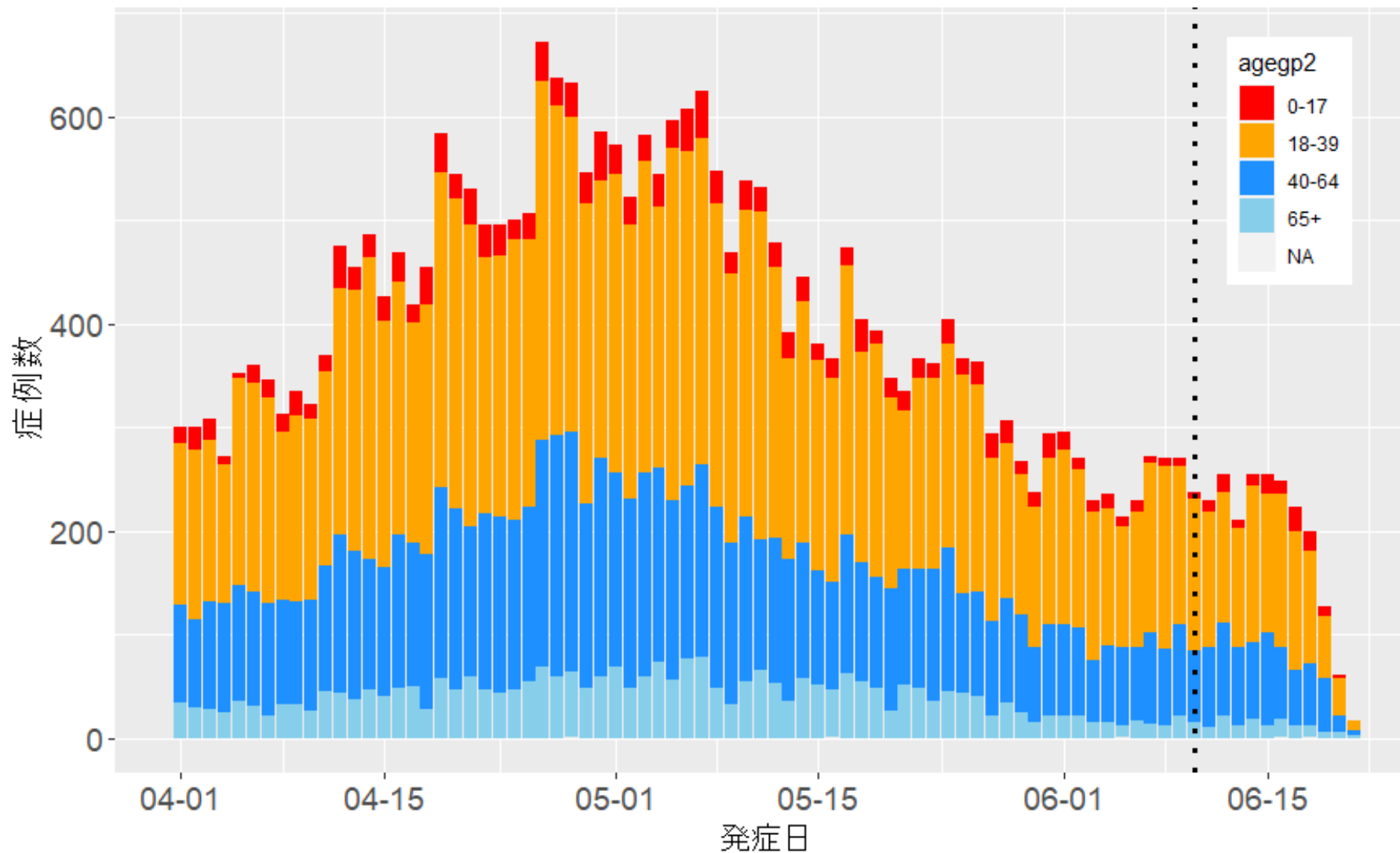
沖縄 (HER-SYS)



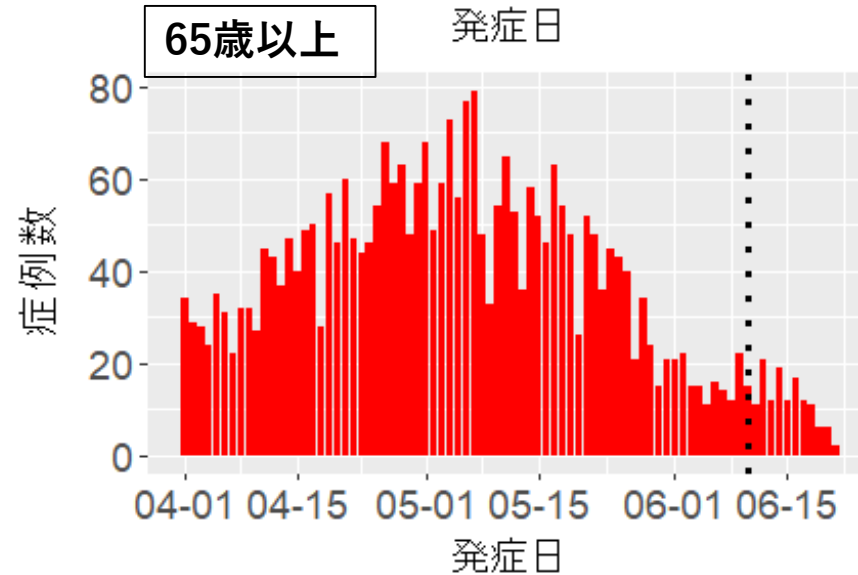
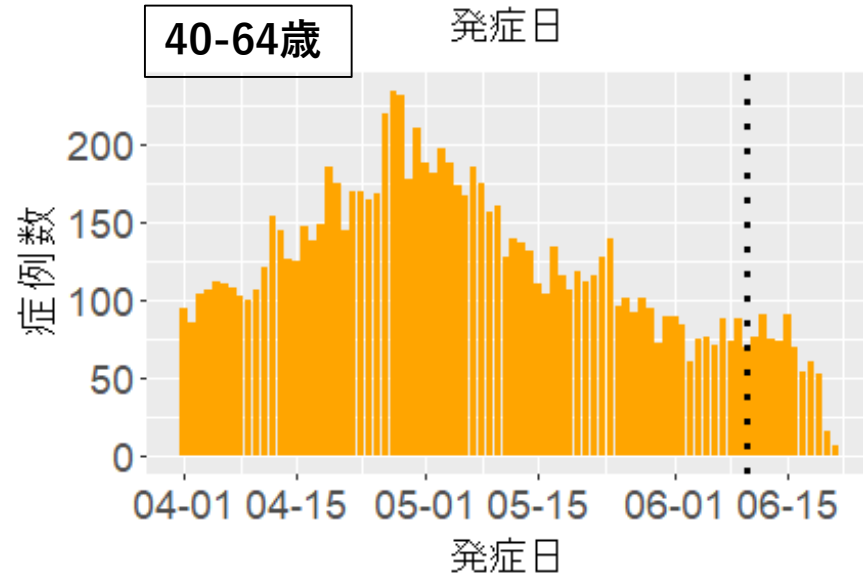
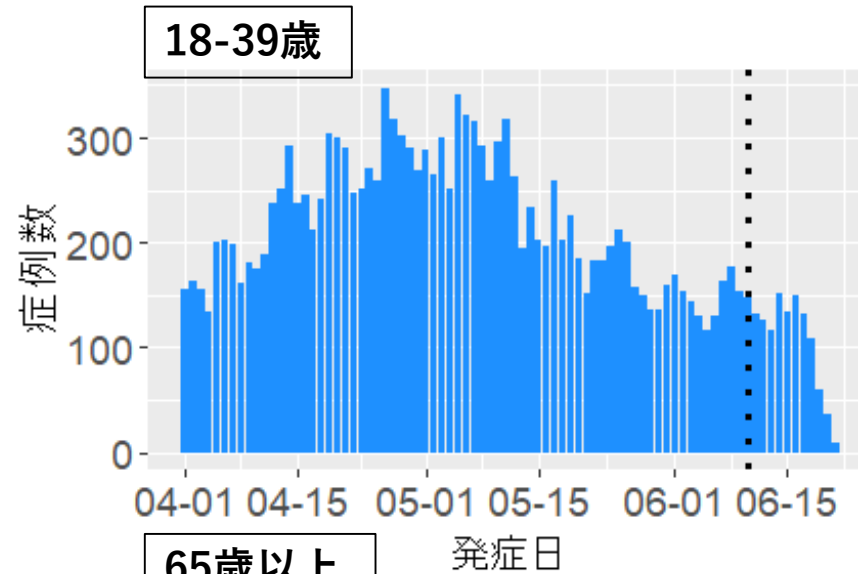
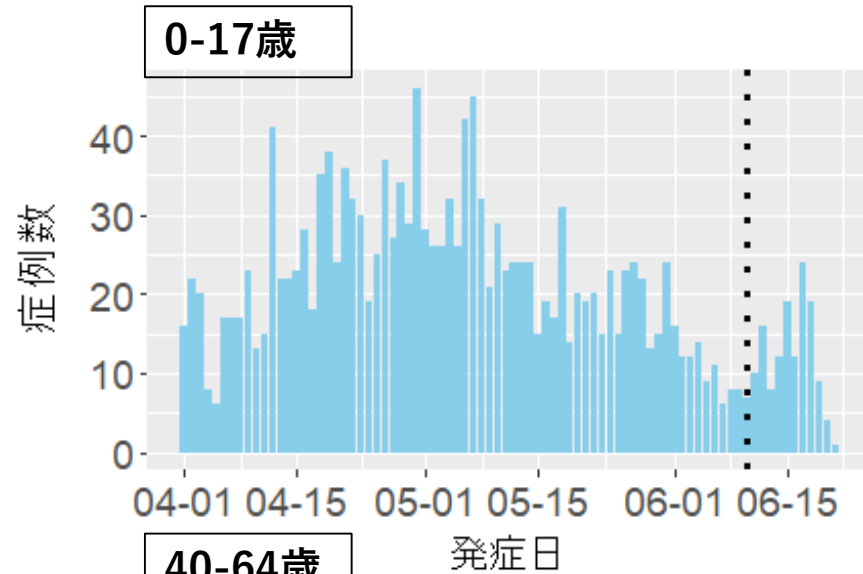
沖縄 (自治体公開情報)



東京都の発症日別流行曲線：6月22日作成



東京都の発症日別流行曲線：年代別、6月15日作成



人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ

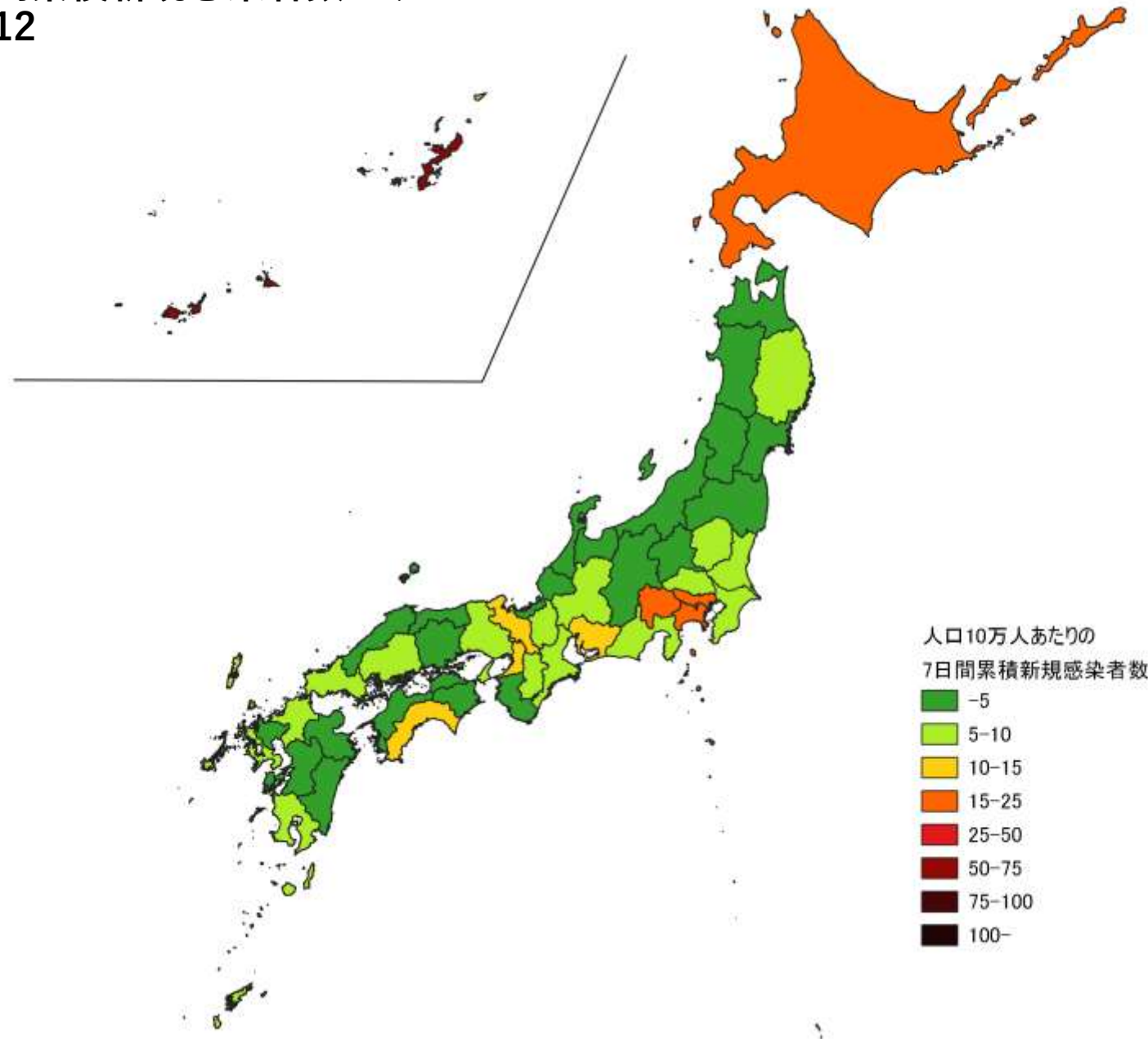
使用データ

- 2021年6月22日時点（6月21日公表分まで）の自治体公開情報を用いて、直近1週間（6/13～6/19）、1週間前（6/6～6/12）の人口10万人あたり7日間累積新規症例報告数（報告日）を都道府県別に図示した。
- 同様に、2021年6月22日時点のHER-SYSデータを用いて保健所管区別の分析（診断日）を行った。
- 集計は日曜日から土曜日であり、疫学週（月曜日から日曜日）とは異なる。
- **データ入力や公表の遅れを考慮し、直近1週間は参考資料とする。**

まとめ

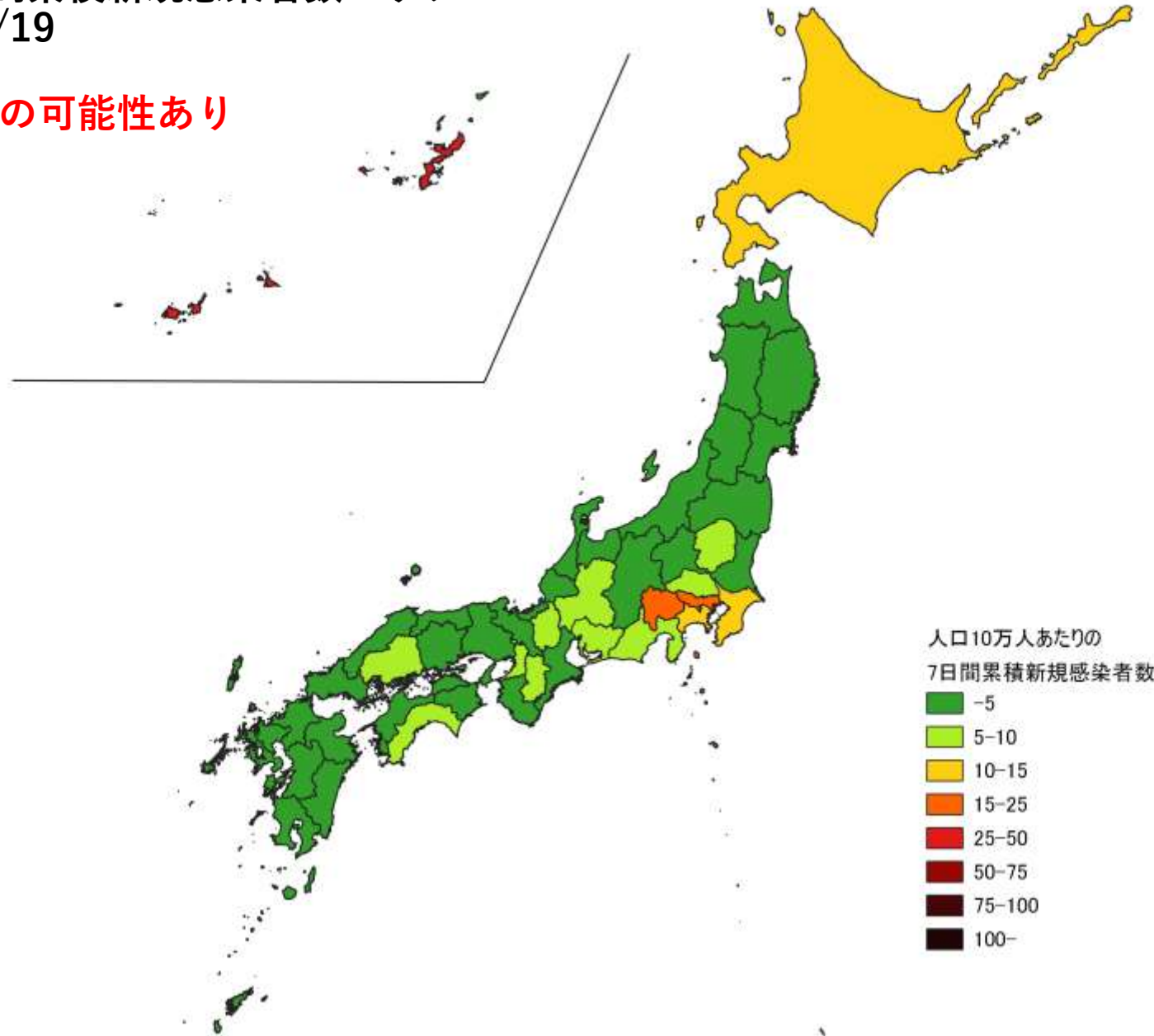
- 直近では、沖縄がステージ4相当、東京、山梨がステージ3相当。
- 保健所管区レベルでもステージ3～4相当は一部地域に限られ、全国的に減少傾向が続いている（一部はクラスター発生が報告されている地域）。
- 北海道では全体的にレベルの低下がみられ、札幌周辺ではステージ3相当。
- 首都圏では都内中心部と千葉県の一部でステージ4相当の地域があり、ステージ3相当の地域はやや拡大傾向にある。
- 中京地域、関西地域、中国地域、九州地域では、継続してレベルの低下がみられる。
- 沖縄では離島を含む広い範囲でステージ4相当が継続している。

人口10万人あたりの7日間累積新規感染者数マップ
都道府県単位 6/6~6/12
(自治体公開情報)

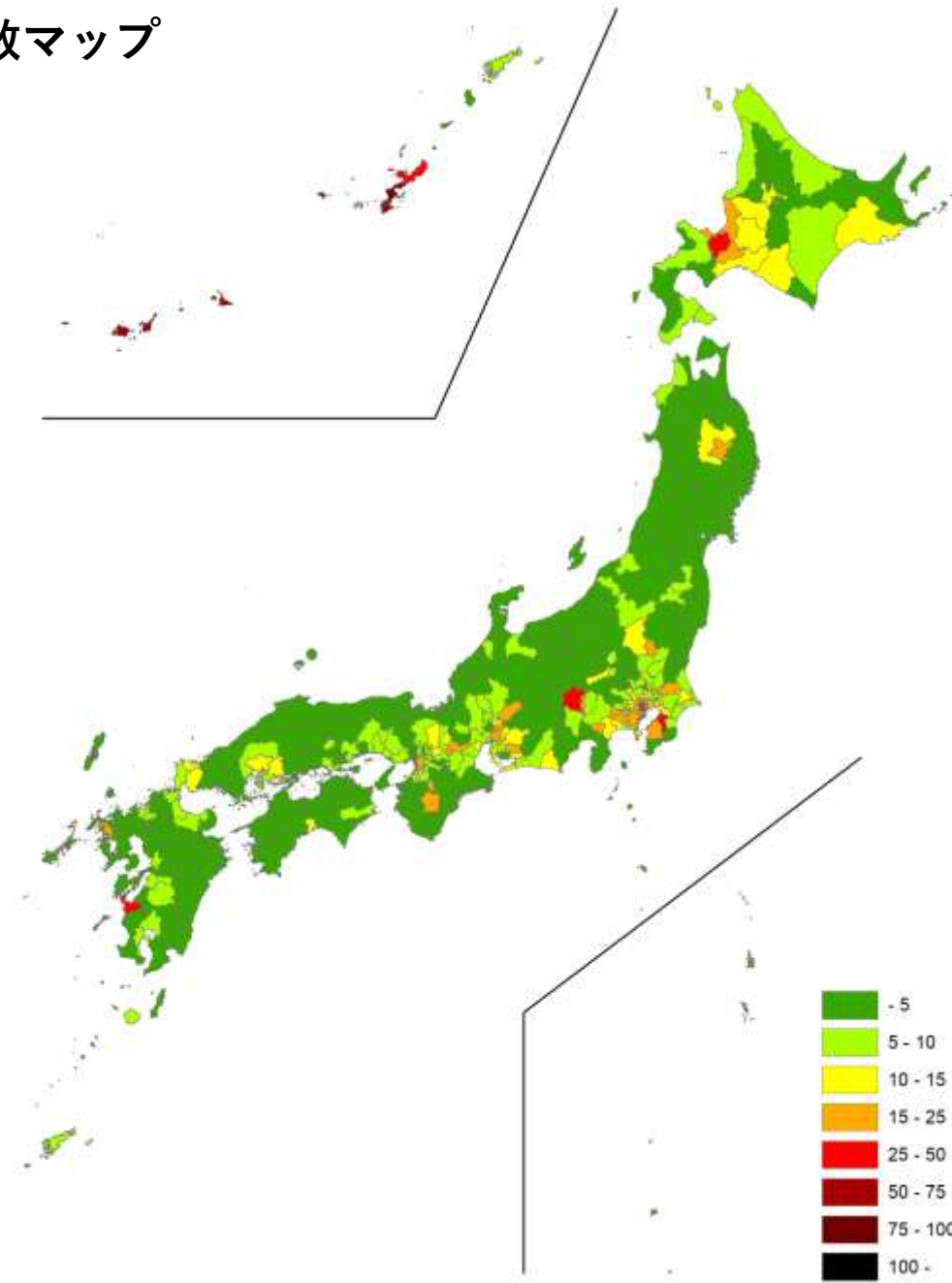


人口10万人あたりの7日間累積新規感染者数マップ
 都道府県単位 6/13~6/19
 (自治体公開情報)

公表遅れによる過小評価の可能性あり



人口10万人あたりの7日間累積新規感染者数マップ 保健所単位 6/6~6/12 (HER-SYS)

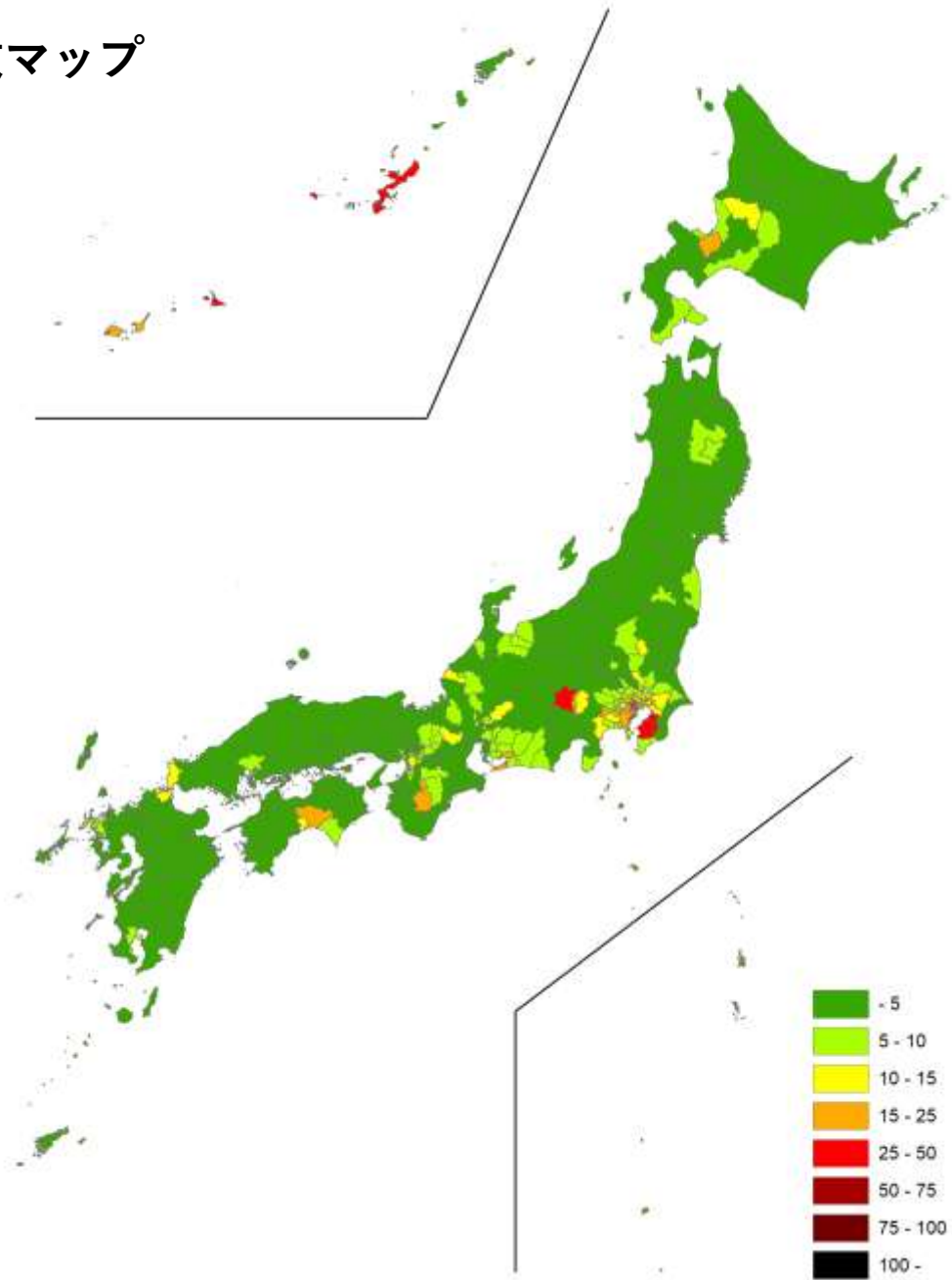


ステージ4相当の保健所管区

- 北海道札幌市保健所
- 東京都中央区保健所
- 東京都みなと保健所
- 東京都新宿区保健所
- 東京都墨田区保健所
- 東京都品川区保健所
- 東京都目黒区保健所
- 東京都渋谷区保健所
- 山梨県中北保健所
- 鹿児島県出水保健所
- 沖縄県那覇市保健所
- 沖縄県中部保健所
- 沖縄県八重山保健所
- 沖縄県南部保健所
- 沖縄県北部保健所
- 沖縄県宮古保健所

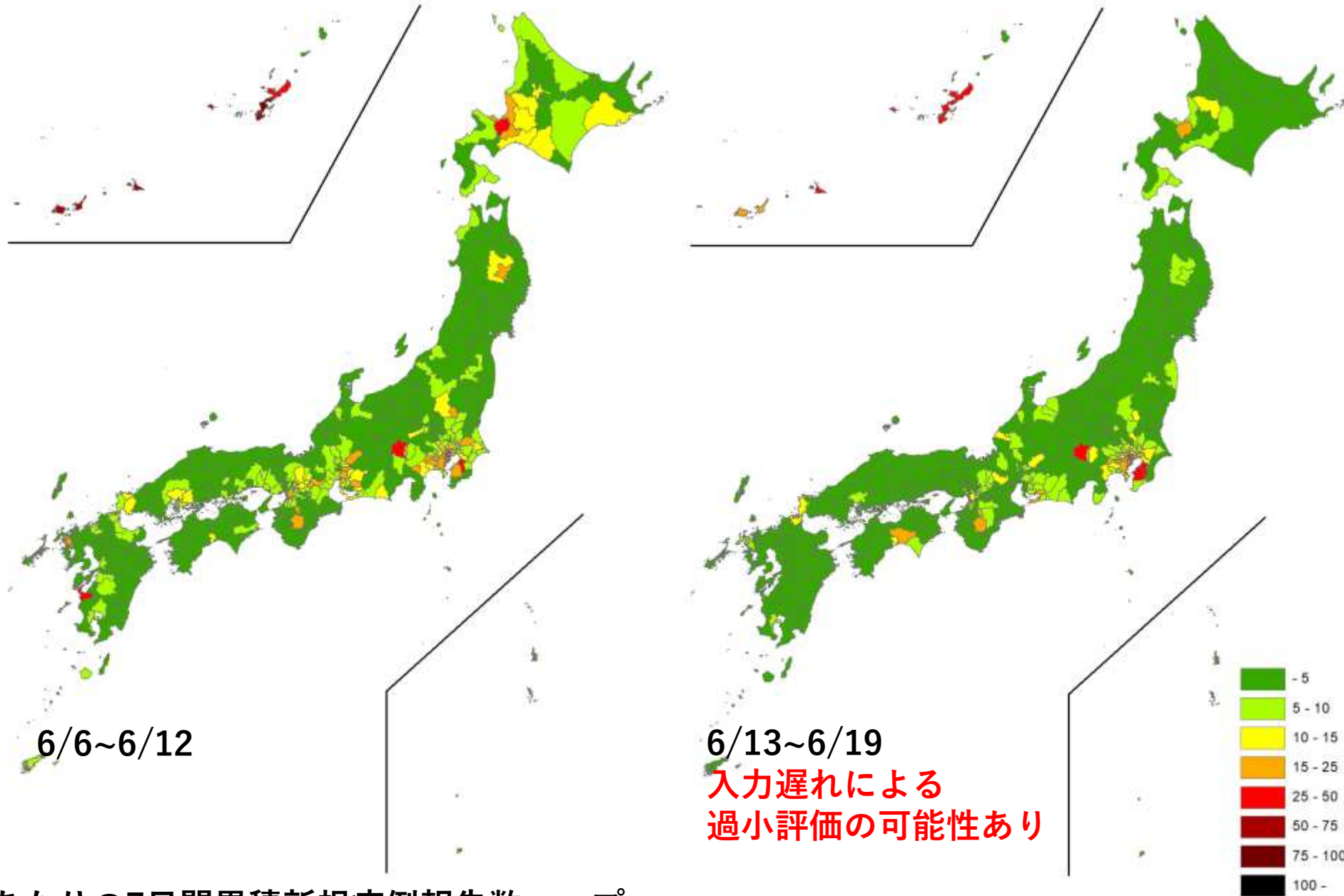
人口10万人あたりの7日間累積新規感染者数マップ 都道府県単位 6/13~6/19 (自治体公開情報)

公表遅れによる過小評価の可能性あり



ステージ4相当の保健所管区

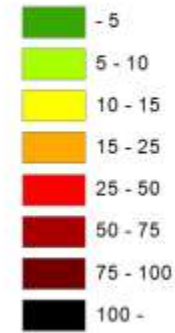
- 千葉県君津保健所
- 千葉県市原保健所
- 東京都千代田保健所
- 東京都中央区保健所
- 東京都みなと保健所
- 東京都新宿区保健所
- 東京都台東保健所
- 東京都目黒区保健所
- 東京都渋谷区保健所
- 東京都中野区保健所
- 山梨県中北保健所
- 沖縄県那覇市保健所
- 沖縄県中部保健所
- 沖縄県南部保健所
- 沖縄県北部保健所
- 沖縄県宮古保健所



人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ
保健所単位 (HER-SYS情報)



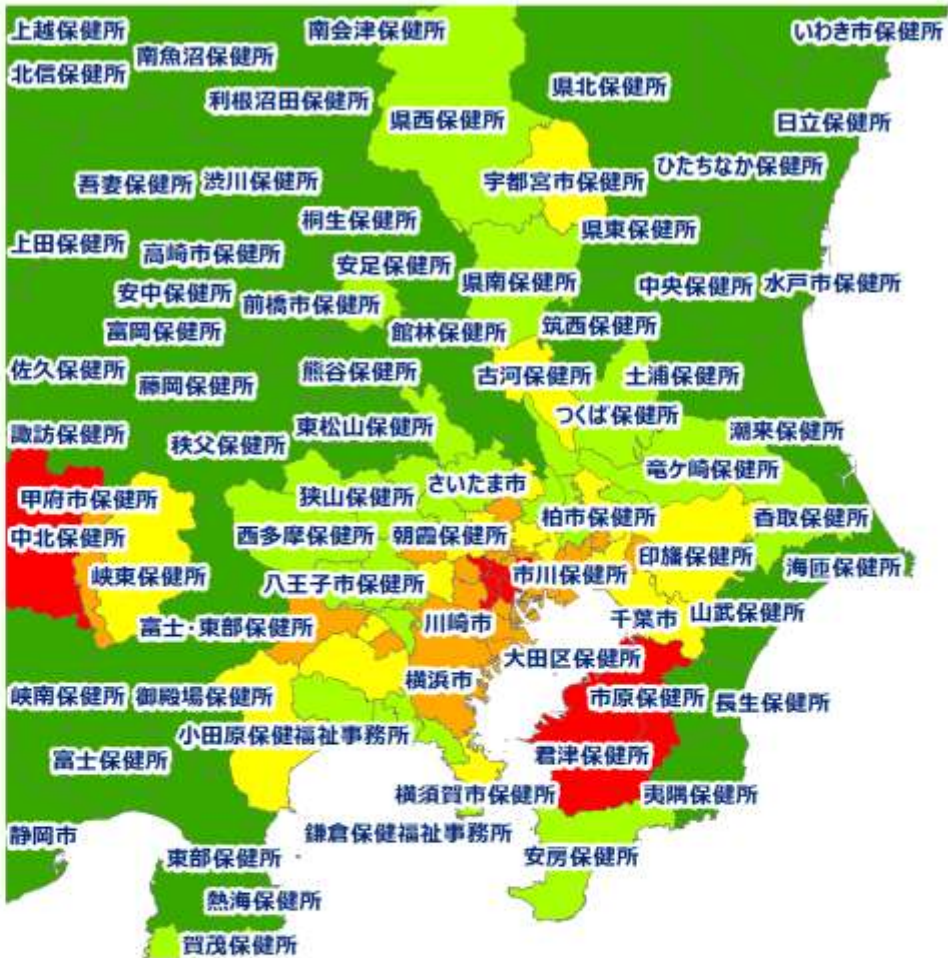
入力遅れによる過小評価の可能性あり



人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ
北海道 (HER-SYS情報)



6/6~6/12



6/13~6/19

入力遅れによる過小評価の可能性あり



人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ
首都圏（HER-SYS情報）



6/6~6/12



6/13~6/19

入力遅れによる過小評価の可能性あり



人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ
東京周辺（HER-SYS情報）



6/6~6/12



6/13~6/19

入力遅れによる過小評価の可能性あり

人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ
 関西・中京圏 (HER-SYS情報)





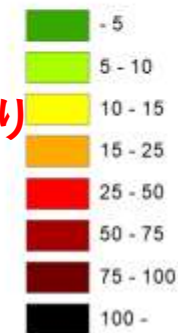
6/6~6/12



6/13~6/19

入力遅れによる過小評価の可能性あり

人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ
愛知周辺（HER-SYS情報）





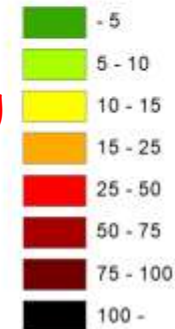
6/6~6/12



6/13~6/19

入力遅れによる過小評価の可能性あり

人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ
三重周辺 (HER-SYS情報)





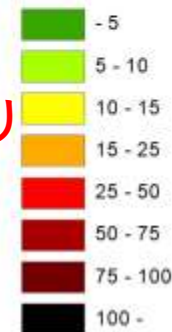
6/6~6/12



6/13~6/19

入力遅れによる過小評価の可能性あり

人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ
岐阜周辺 (HER-SYS情報)





6/6~6/12

人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ
大阪周辺（HER-SYS情報）



6/13~6/19

入力遅れによる過小評価の可能性あり





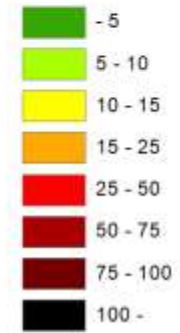
6/6~6/12



6/13~6/19

入力遅れによる過小評価の可能性あり

人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ
岡山・広島周辺（HER-SYS情報）





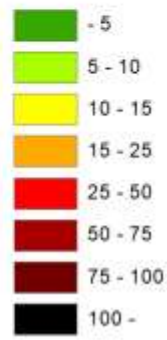
6/6~6/12



6/13~6/19

入力遅れによる過小評価の可能性あり

人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ
九州地方 (HER-SYS情報)





6/6~6/12



6/13~6/19

入力遅れによる過小評価の可能性あり

人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ
福岡周辺 (HER-SYS情報)





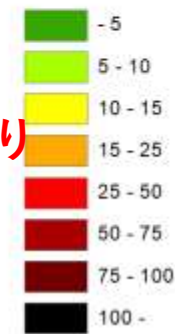
6/6~6/12

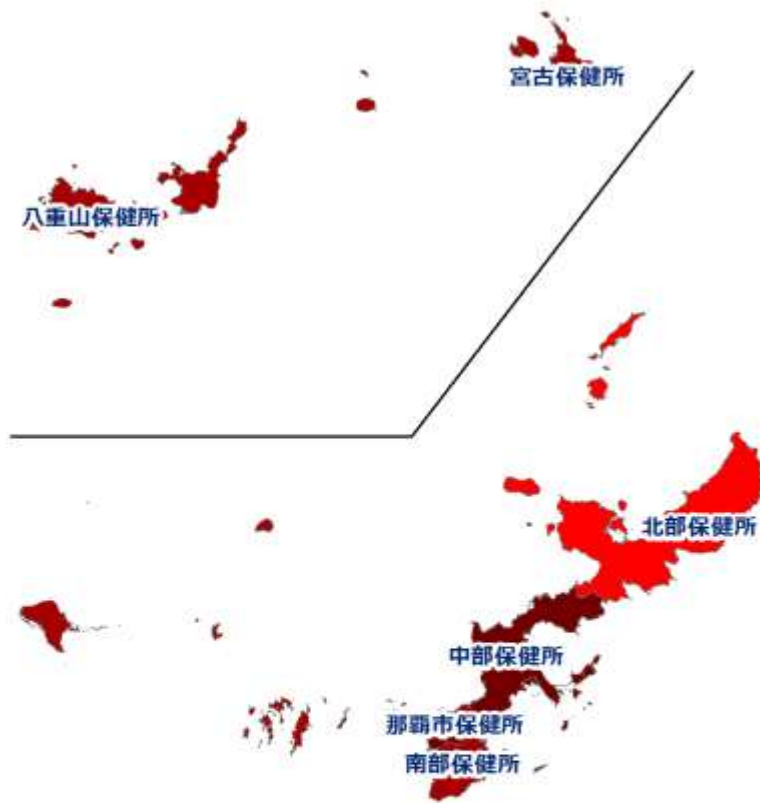
人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ
熊本周辺（HER-SYS情報）



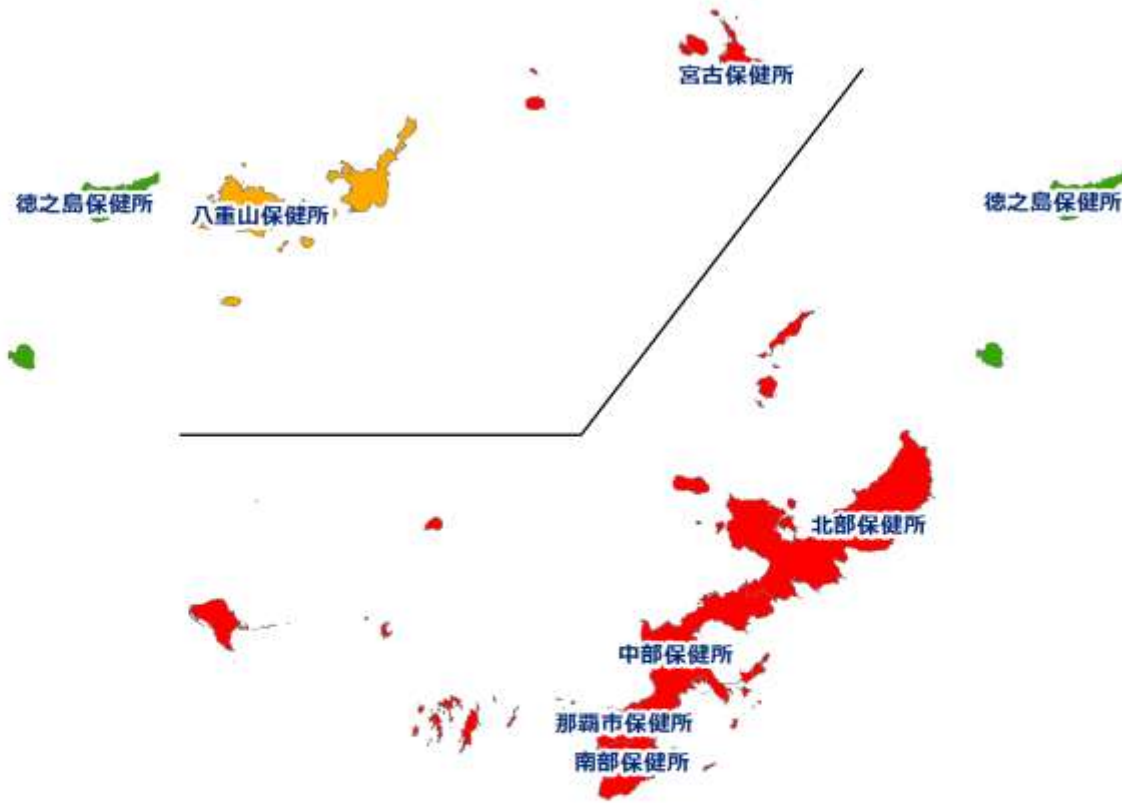
6/13~6/19

入力遅れによる過小評価の可能性あり





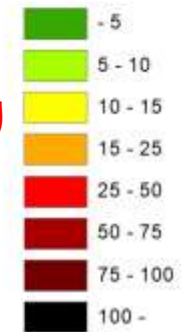
6/6~6/12



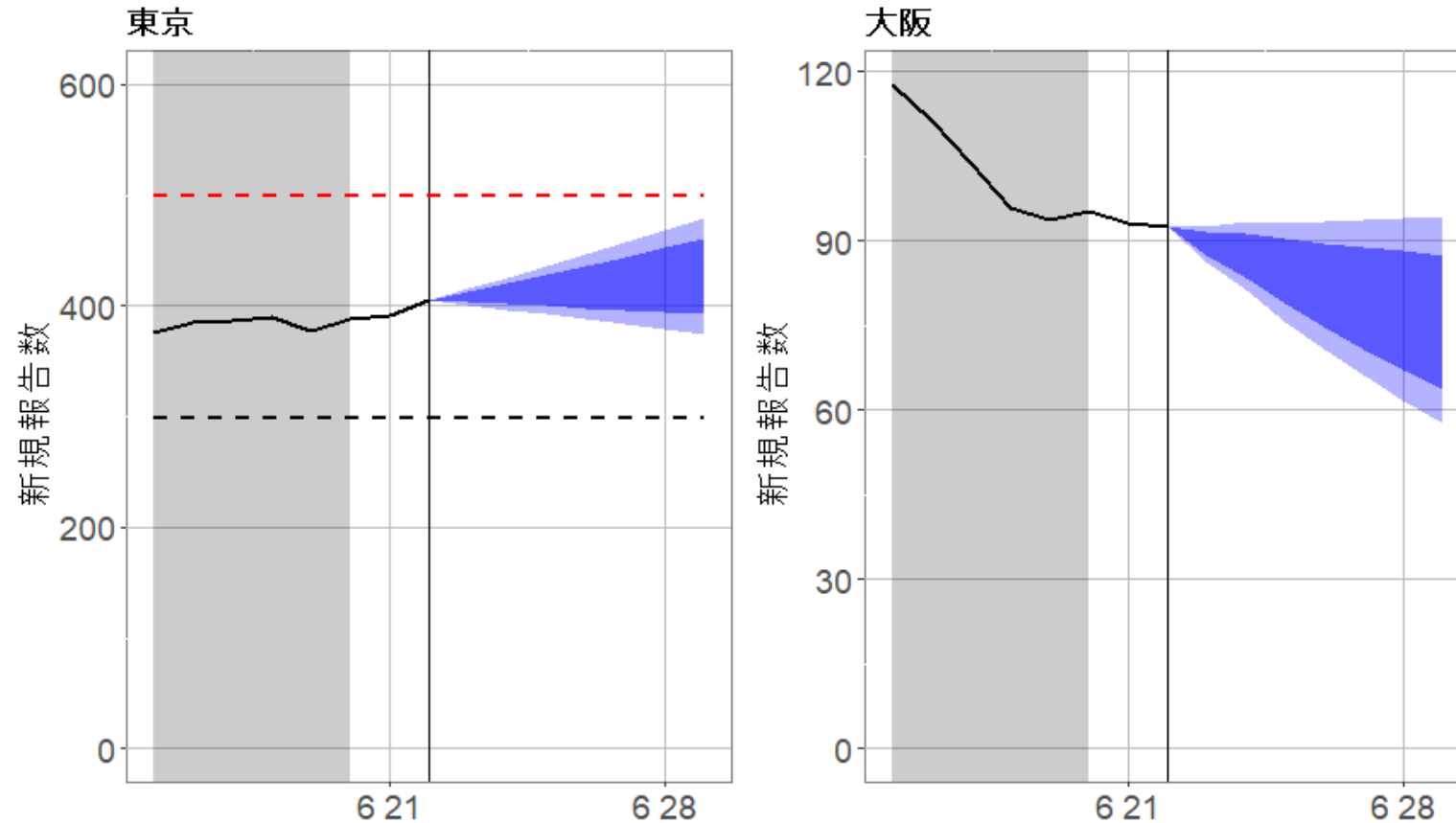
6/13~6/19

入力遅れによる過小評価の可能性あり

人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ
 沖縄（HER-SYS情報）



新規患者数（7日間移動平均）のシミュレーション：6月22日作成



都道府県ごとに、新規症例数（報告日別）を用いてCori et al. AJE 2013の方法（window time=7）で実効再生産数を推定した。次に実効再生産数が8日前の人流、気温と関係するという想定のもとに時系列回帰分析を行い、これに基づいて日別の実効再生産数の予測を行った。作成日時点の新規症例数の7日間移動平均値を起点として、予測実効再生産数の80%および95%予測区間の上限値と下限値を用いて今後7日間の予測症例数を算出した（図中の青帯）。点線はそれぞれ人口10万対7日間累積症例数が25相当、15相当をあらわす。人流データはGoogle社のCOVID-19：コミュニティモビリティレポート（<https://www.google.com/covid19/mobility/>）、気象データは気象庁の公開データを用いた。デルタ株の影響は考慮していない。

HER-SYSに登録された新規変異株症例のまとめ（6月21日時点）

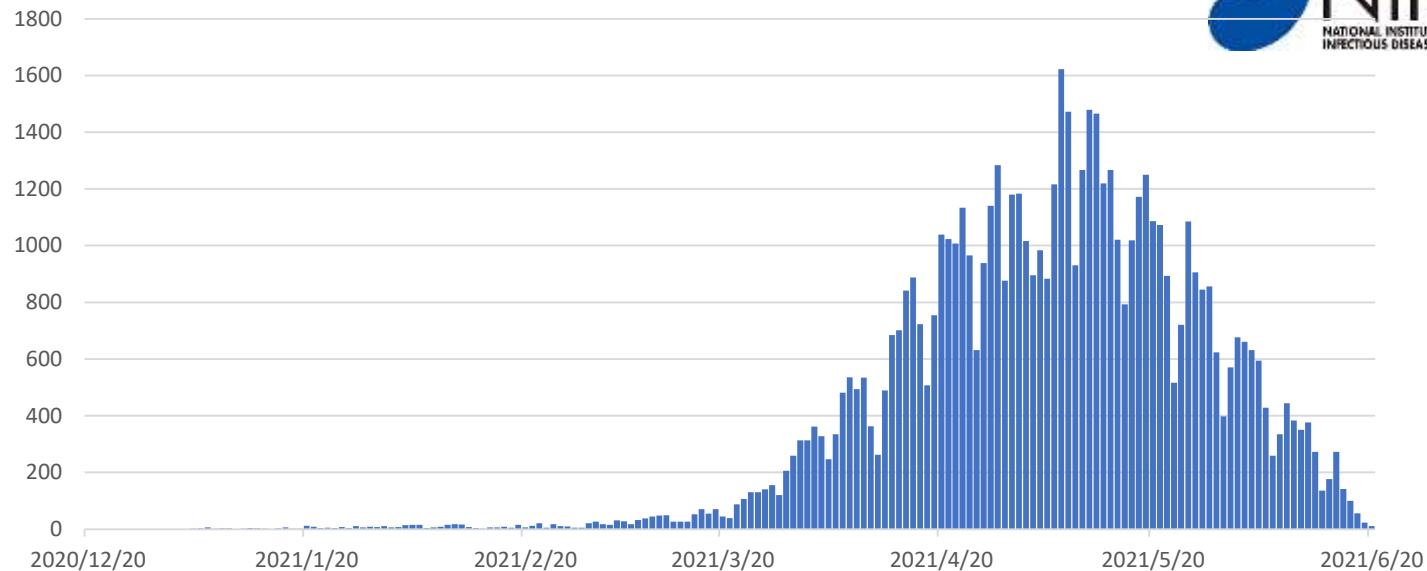
| | | ゲノム解析 | | |
|----------------------|------|----------|--------|--------|
| | | 実施 | 未実施 | 計 |
| 変異株 PCR | 陽性 | 11,314 | 50,247 | |
| | 未実施 | 364 | | |
| | 判定不能 | 29 | | |
| 計 | | 11,707 | 50,247 | 61,954 |
| 株 | | N=61,954 | | |
| B.1.1.7系統 (アルファ株) | | 10,307 | | |
| B.1.351系統 (ベータ株) | | 24 | | |
| P.1系統 (ガンマ株) | | 82 | | |
| B.1.617系統 (デルタ株等) | | 132 | | |
| その他 | | 931 | | |
| 空欄 | | 50,478 | | |

| 性別 | N=61,954 |
|--------|----------|
| 男性 | 33,130 |
| 女性 | 28,698 |
| 不明 | 126 |
| 症状/発生届 | N=61,954 |
| 肺炎 | 1,628 |
| 重篤な肺炎 | 193 |
| ARDS | 68 |
| 多臓器不全 | 18 |
| 死亡* | 624 |

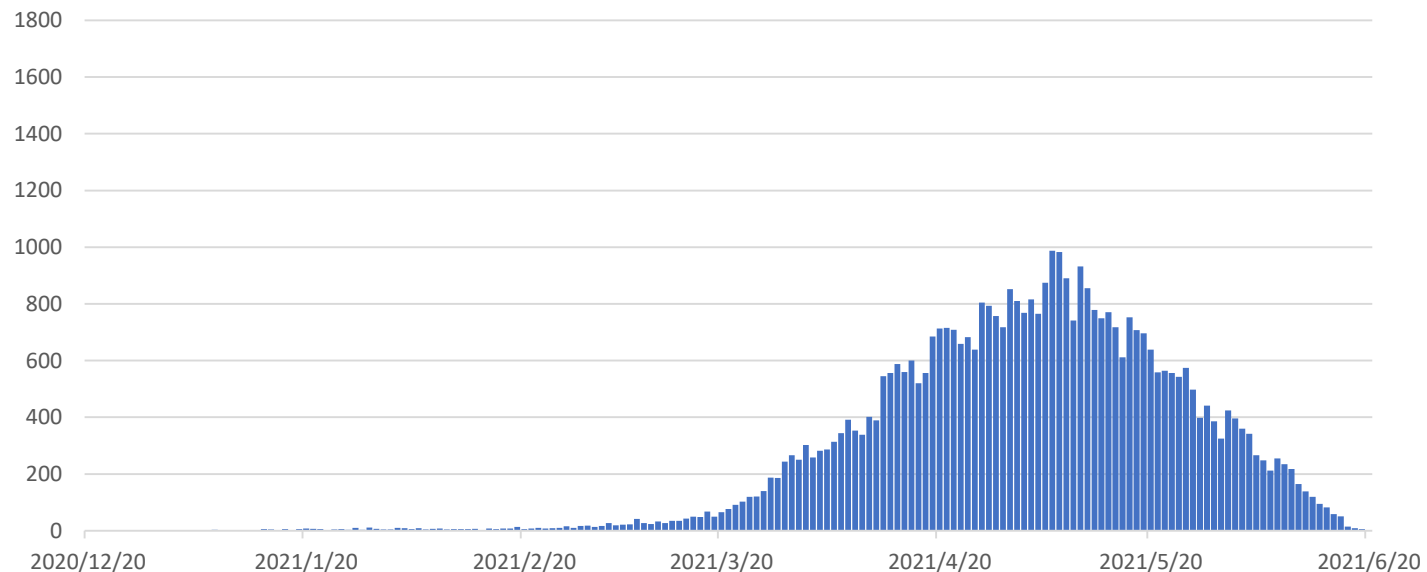
| 年齢 | 度数 N=61,954 | 割合 |
|-------|----------------|-----|
| 10歳未満 | 2,976 | 5% |
| 10代 | 5,987 | 10% |
| 20代 | 14,544 | 23% |
| 30代 | 9,283 | 15% |
| 40代 | 9,114 | 15% |
| 50代 | 7,726 | 12% |
| 60代 | 4,786 | 8% |
| 70代 | 3,752 | 6% |
| 80代 | 2,404 | 4% |
| 90代以上 | 868 | 1% |
| 不明 | 514 | |

*措置判定記録として死亡年月日があるもの

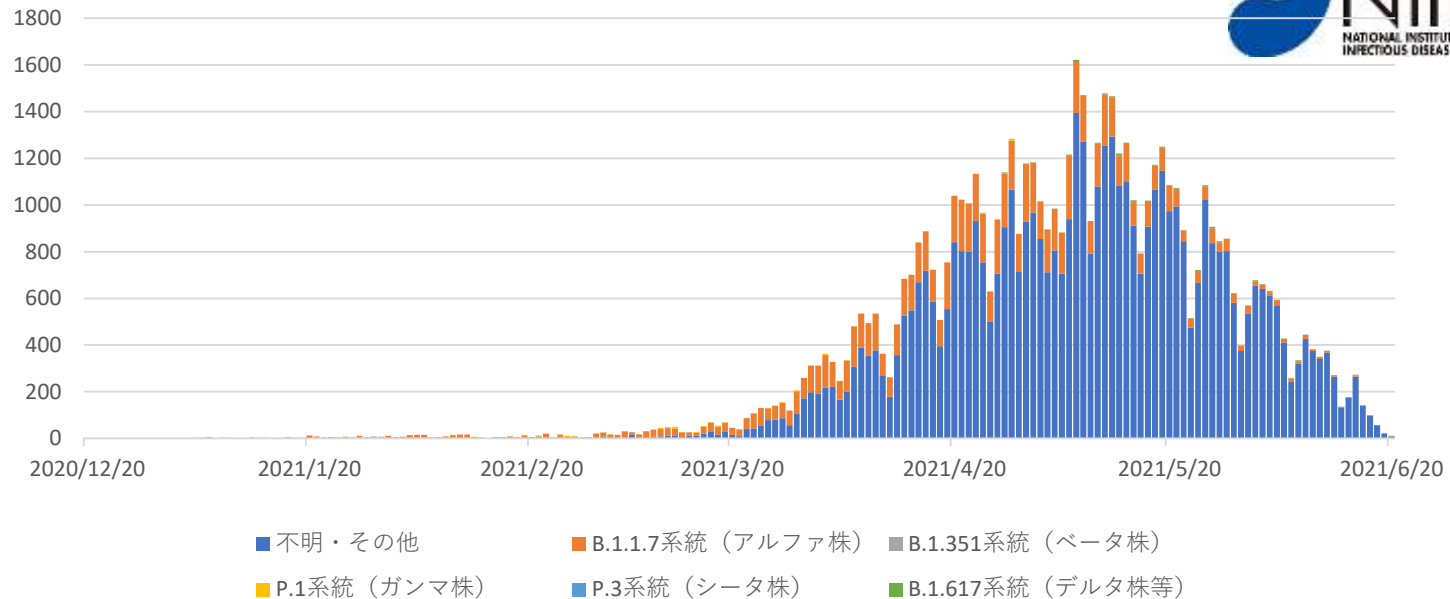
報告日別新規変異株症例届出数
(2020年12月20日～2021年6月20日) n=61,954



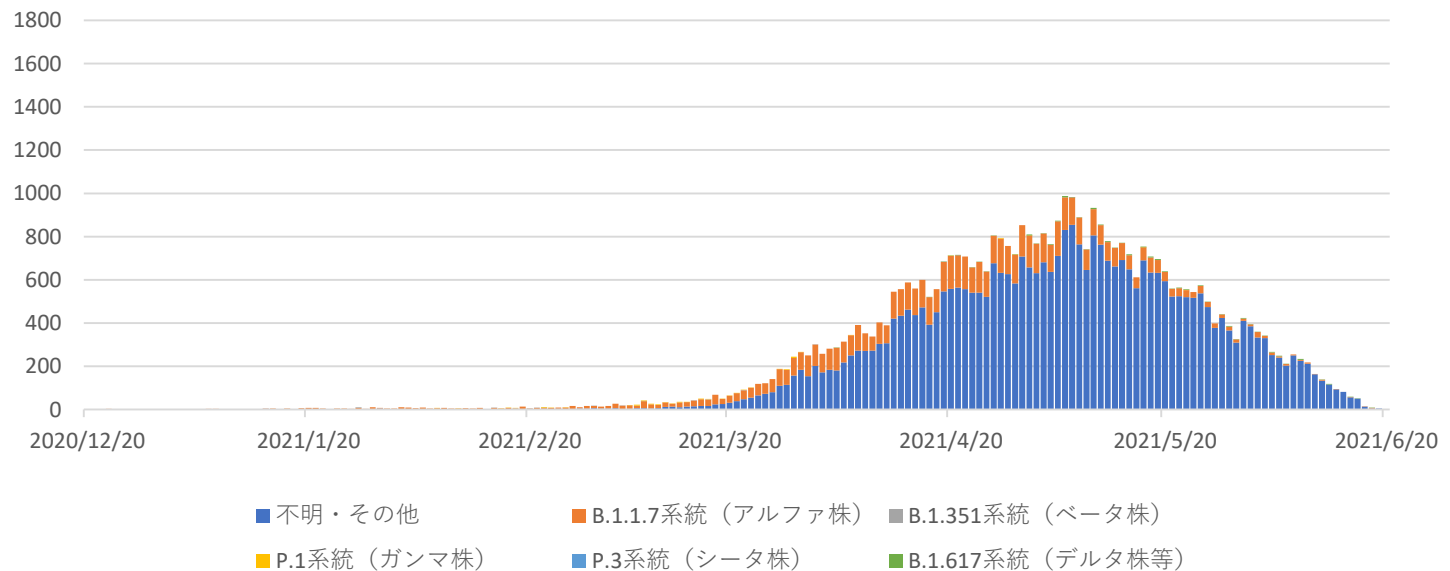
発症日別新規変異株症例届出数
(2020年12月20日～2021年6月20日) n=43,496



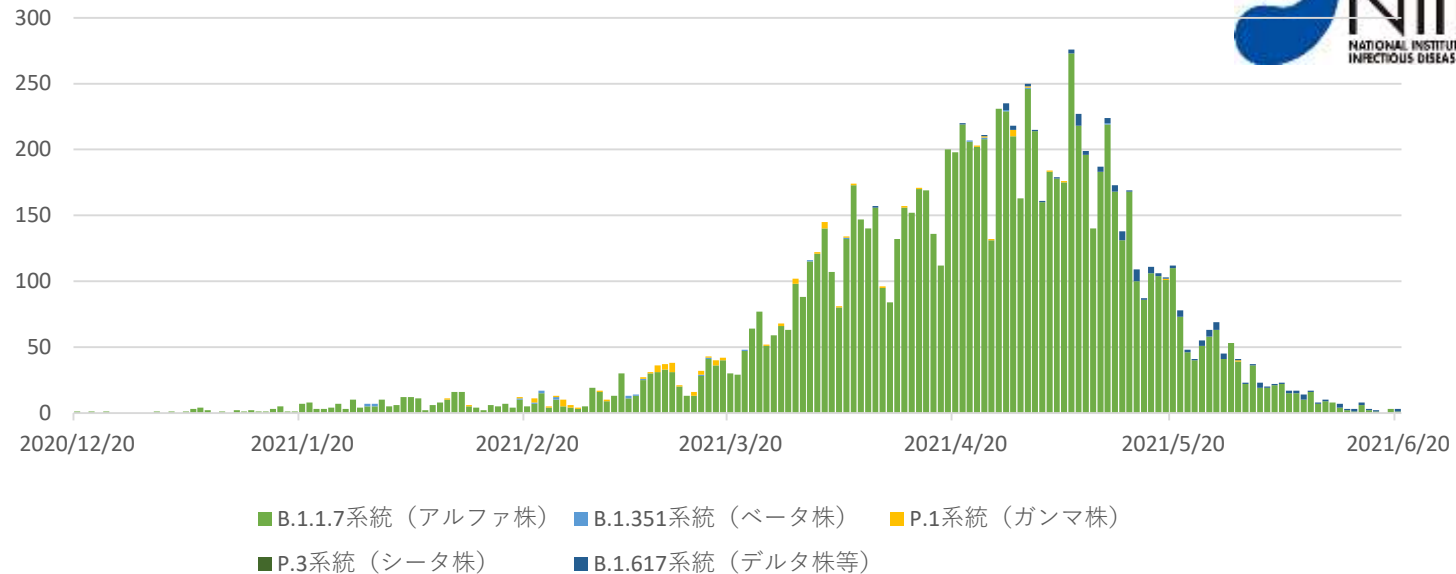
報告日別新規変異株症例届出数
 (2020年12月20日～2021年6月20日) n=61,954



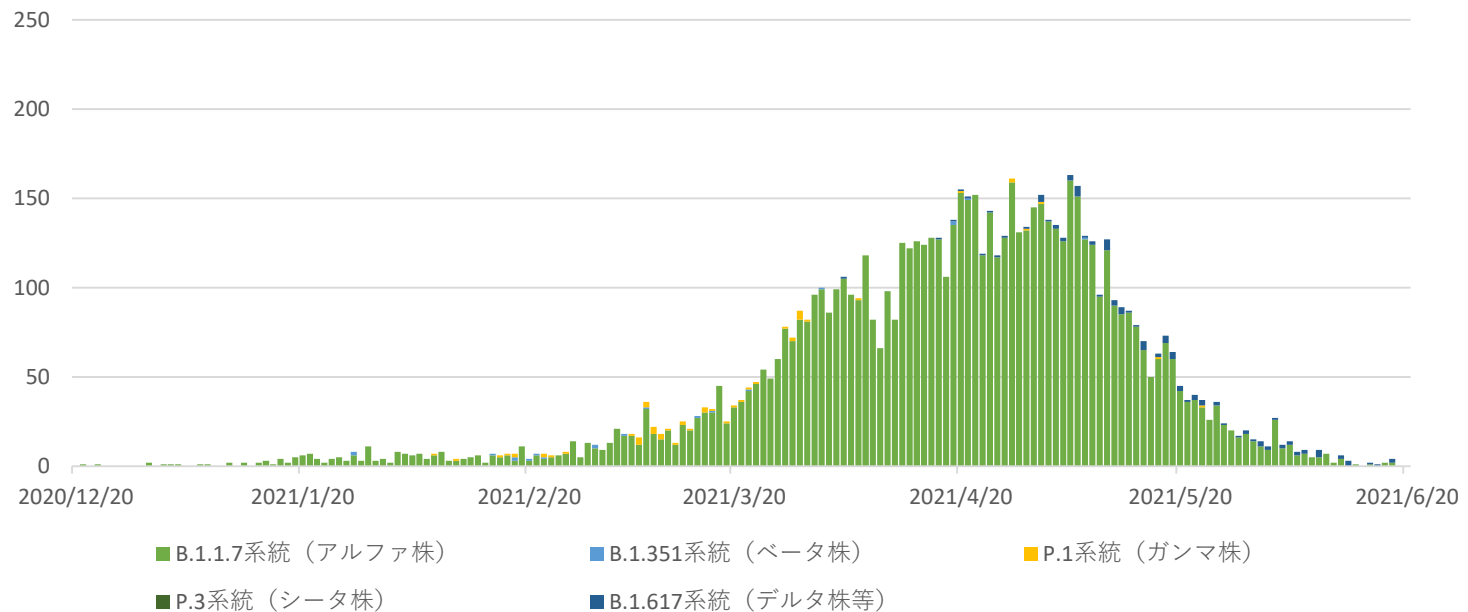
発症日別新規変異株症例届出数
 (2020年12月20日～2021年6月20日) n=43,496



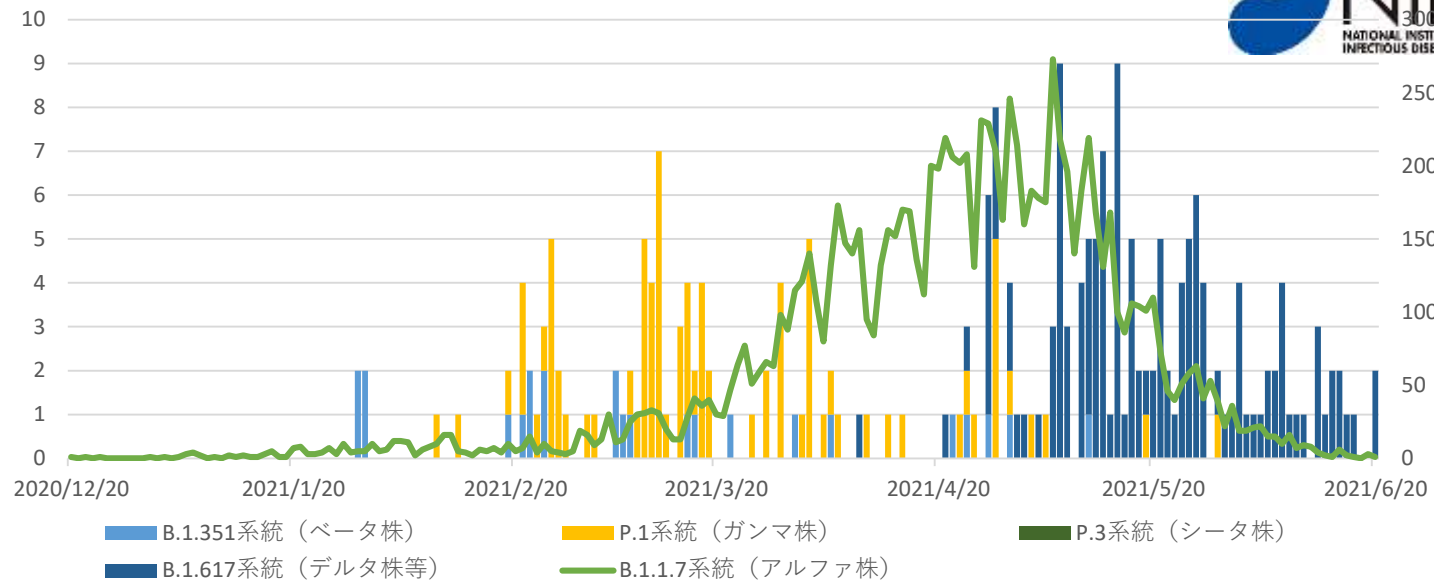
報告日別新規変異株症例届出数（株確定のみ）
（2020年12月20日～2021年6月20日） n=10,545



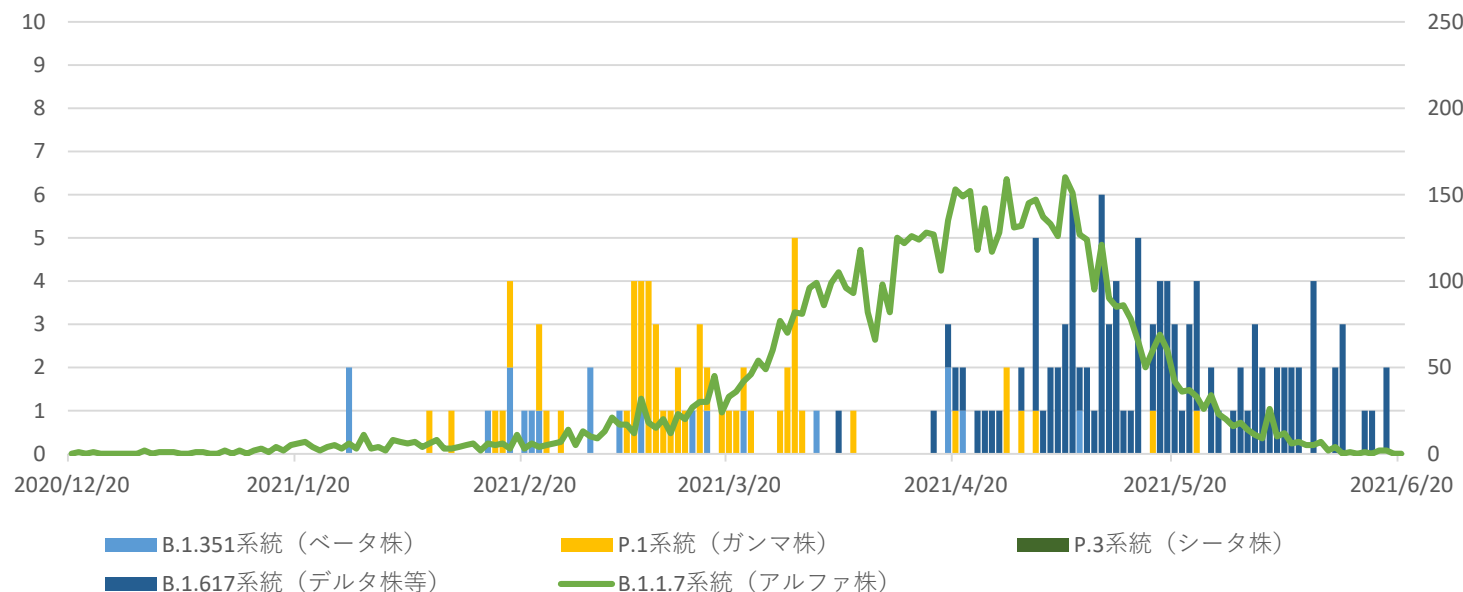
発症日別新規変異株症例届出数（株確定のみ）
（2020年12月20日～2021年6月20日） n=7,472



報告日別新規変異株症例届出数（株確定のみ）
（2020年12月20日～2021年6月20日） n=10,545

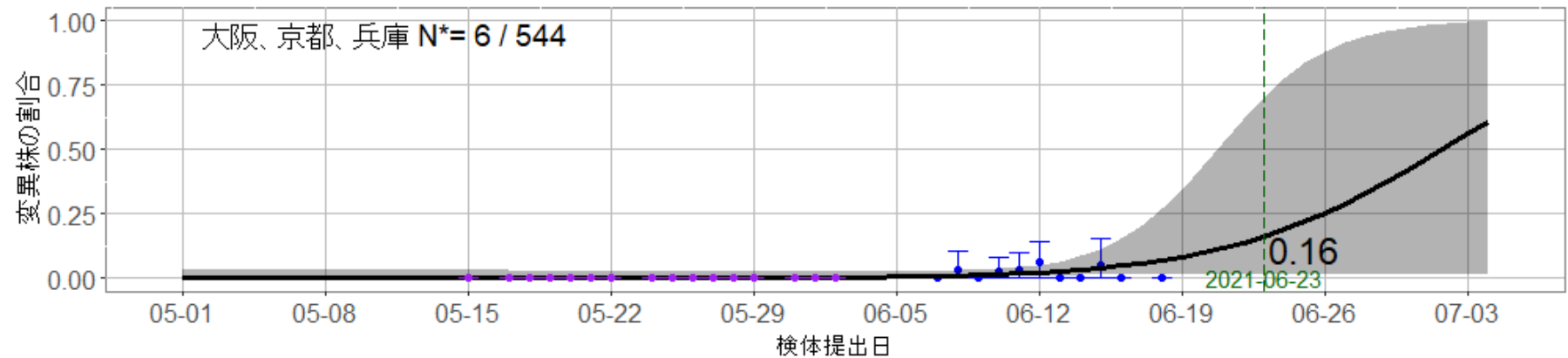
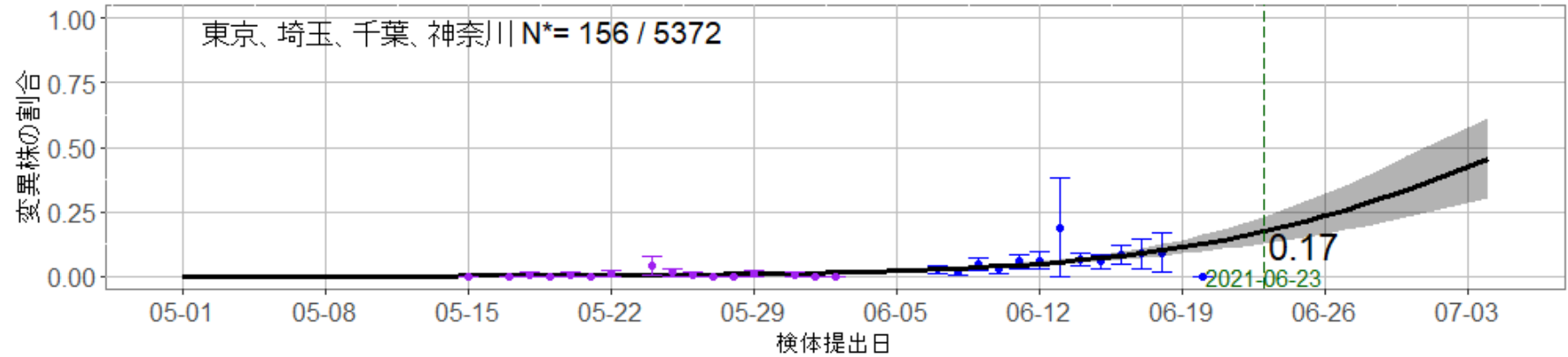


発症日別新規変異株症例届出数（株確定のみ）
（2020年12月20日～2021年6月20日） n=7,472



SARS-CoV-2陽性検体に占めるL452R変異の割合：6月21日時点

増加率の変化# : +60.7%
 [95%信頼区間 48.4-74.3%]



データは民間検査会社（6社）の変異株スクリーニング検査の結果を用いた。6月6日以前は原則的に各社のSARS-CoV-2陽性検体は全てN501Y-PCR検査が実施され、N501Y陰性検体についてL452R-PCR検査が実施された（分母は全N501Y-PCR検査実施数）。6月7日以降は原則各社のSARS-CoV-2陽性検体は全てL452R-PCR検査が実施された（分母は全L452R-PCR検査実施数）。図中の点は検体提出日ごとのL452R変異割合の点推定値、バーは95%信頼区間の上限と下限を表す。なお、スクリーニング体制の変更があったことから、6月6日以前を紫色、6月7日以降を青色で区別している。分析に際しては、最終的にすべてのウイルスがL452R変異を有するウイルスに置き換わることを前提としている。推定には不確実性があり（図中では推定ラインの95%信頼区間をグレーで示している）、今後、スクリーニング件数が増えることで値や形状が変化する可能性がある。

*L452R変異検出数/変異株スクリーニング件数

#L452R変異ウイルスの感染・伝播性（transmissibility）が従来流行していたウイルス(N501Y変異ウイルス)のtransmissibilityに比べてどれだけ増加したかを表す。